

大和名所圖會

十市郡  
芳野郡

六  
乾



部内	番号	價目	格價	所有
四	九	一	〇	

大和名所圖會卷之六

十市郡目錄

多武峰 増賀墳 淡海山墓 安陪社 栗原山 棕橋川 響石 日女令社 磐余池 同所 甕栗宮 二階堂  
 妙樂寺 飯盛塚 兩柳宮 用明天皇陵 薄里櫻 崇峻天皇陵 名知寺 七井 玉穗宮 稚櫻宮 天香久山  
 聖靈院 加佐々後山 若櫻社 東光寺 下居社 下居里 荻田寺 阿部文殊堂 土舞臺 市磯池 香鼻山離宮  
 定慧墳 紅葉洞 等彌社 上宮 倉橋山 名知山 田寺 雙柳宮 安陪島山 文殊院 天磐戸



山口社  
龍華臺院  
五百井  
大名持社  
猪養山  
お分社  
一藏王  
日本苑  
藤尾坂  
二天門  
實城寺  
櫻本坊  
勝子明神

高樺社  
鳥宿山  
石塚  
妹背山  
櫻渡口  
一之坂  
長崎茶師  
七曲  
大橋  
金崎山寺  
吉水院  
依極明神  
神振山

龍門山城趾  
大那溪  
龍立城趾  
吉野山  
本善寺  
四千掛社  
松山御茶屋  
花園山  
圓石花  
威徳天神  
駄天山  
御影山  
如意場寺

鶴井  
龍門池  
千股溪  
吉野川  
六田淀  
水命山  
千本櫻  
櫻田谷  
金名居  
芳那賦  
五基寺  
村上義隆碑  
後醍醐帝陵

湯澤社  
大福村  
耳梨池  
葛本社  
竹田社  
十市社  
千代社  
皇子社  
龍門山

吉野郡目録

榊真社  
都多本社  
耳成山  
耳成社  
耳成池  
坂門社  
笠縫里  
子部社  
姫皇子社

唾安池  
膳夫村  
施子山  
耳無行宮  
常盤里  
御厨池  
十市里  
尾就社  
小杜社

土安社  
吉備公別業  
耳無川  
耳無井  
猛田原  
砧塚  
三光寺  
多社  
百濟宮  
高見山  
海部家七子  
佛所院

竹林院  
後坂  
世尊寺  
牛頭天王  
遙谷  
蹴上塔  
大龍  
龍泉寺  
琵琶山  
笙岩室  
巴剎  
菊窟

椿山寺  
模觀寺  
辰の尾  
高等堂  
岩倉谷  
安禪寺  
晴吟小邸  
鎧嶽  
弓絃葉井  
井光宅  
旭窟  
宮川  
正善窟

布引櫻  
中院谷  
人磨塚  
高城山  
金精社  
青根我家  
白倉山  
あげら谷  
吉野皇居  
釋迦窟  
鷹窟  
金剛寺  
聖天窟

天皇橋  
花久倉  
子守社  
躑躅正  
金津嶽  
苔法  
無名川  
大刀屋  
所影石  
國見山  
大基原  
鹽葉山  
不動窟

柏木社  
小牟漏岳  
假寝橋  
吉魚張  
川上鹿鹽社  
篲橋  
瀧浦  
神明井  
今本寺  
鳴天神  
安騎那  
願樂寺  
笠本川

國栖莊  
丹生祠  
櫻木社  
舟船山  
橋井社  
大河野辺  
多藝河内  
大河堤  
薬水井  
宇治向山  
東那  
立興寺  
鎧岩

耳我嶺  
象山  
箕箕川  
檜尾山  
宮瀧  
瀧御門  
遊副川  
法真良塚  
八幡社  
吉野分社  
秋那川  
瀧上寺  
高等墓

國栖山  
象小川  
花籠水  
日晚那  
清原  
玉水瀧宮古  
夢回備  
新漢  
比蘇寺  
丹治川  
鉢蘇  
土田川  
多栖山

寒那川 瀧川 瀧尾社 小清水 寶藏寺 高原 風屋 憩息石 林泉寺 龍川寺 池原川 柳本渡 上嶽

二浦社 蘆瀨川 天神祠 芋瀨渡 平維盛墓 備後 小井瀧 沈峯社 異像 芋瀨宅趾 佐田川 獨木梁 上嶽王権現

西社 津納飛泉 伯母子嶺 温泉 佐久間信盛墓 出谷川 小系 沈家社 水分社 竹原八布宅 葛川溪 上嶽下

美穂 川分社 大清水 山崎社 白屋嶽 西川 伎後川 河津社 寶泉寺 尼妙圓宅 安曾川 神上渡 釋迦嶽

鳳閣寺 後村上帝皇居 丹生山 丹生川 白銀嶽 鷹巢山 白瀑布 稲色嶽 燈籠洞 池津川社 四所祠 七面山 高嶺 仍者嵩

黄金嵩 春日社 丹生社 波寶社 立川社 朝鮮嶽 將軍塚 乾山 藥師堂 玉置山 十二嶽 湯系温泉

倉瀧 鎮國寺 丹生寺 檜迫川 禪龍寺 惣門瀑布 天川 池津川 小壺山 王置川 日社 十津川 中村祠 無終山

常學寺 後醍醐天皇居 櫃岳 波比賣社 乘鞍山 伊波多社 龍泉寺 白飯寺 荒神岳 戸田糸墓 玉垣内社 小松山 和田峯

善鬼里

巖

善鬼川

都藍尼

吉所紀の曰  
多武家少て  
よら侍

石末く

こもも  
椽の

岑はく

右井  
初家の

花の  
中宿

飛鳥井雅章





多武峰

北陸郡小坂町にあり

田身嶺 日本記 大務 日本記

談峰

縁起

多武年

法華

談武

曾賀

夢記

夫多武家者釋書に五基と書東に伊勢のさるる金剛山南に金峯と北に大神の中央に談家あり足神の靈岨

中華の五岳小異

荷西記

多武峰は三方の嶺あり東に倉橋五十餘町あり細川二十七町北に

談と妙樂寺護國院に定惠和尚の創建あり本殿の中央あり

大織冠鎌足に九の定惠和尚右の淡海にあり講堂常行堂灌頂堂

本願堂護摩堂鐘樓輪藏寶藏及び僧院四十二區あり贈大

政大臣正一位藤原朝臣鎌足公の祠廟と正殿の東にありお殿樓

向小祠ありあり押談に中大兄皇子天皇と中尾鎌子連と心あり

すく鞍化入鹿公誅伐すく平天下ありすく奇計とあり

皇子を將く城の東倉橋の家に登り藤のたけ下りて撥乱

反正の謀を談ひ給へる皇子よと歡ひゆりて我大位不採らば

汝が姓かわらば及東とせんを宣ふその談新らるる談を

號ひけるはけ時談武家ともし初と名礼記龍岳といふを

けこの町とち音石家よりんて龍の起る九とん久坂の

頭版とありに危とありてやんたんとけ名ありと縁

十三層塔に定惠和尚の系創りてはまのうらめり尋地底小大織

冠の遺骨を納り押の塔に定惠和尚自維平にを築きふり

お受のみを清涼の寶地院の十二層の塔とて造りて塔朝の

船につまひいりて塔材繁多あり一層を築きては

白鳳七年九月日本小倉岸あり清光不比叅に對面ありと父

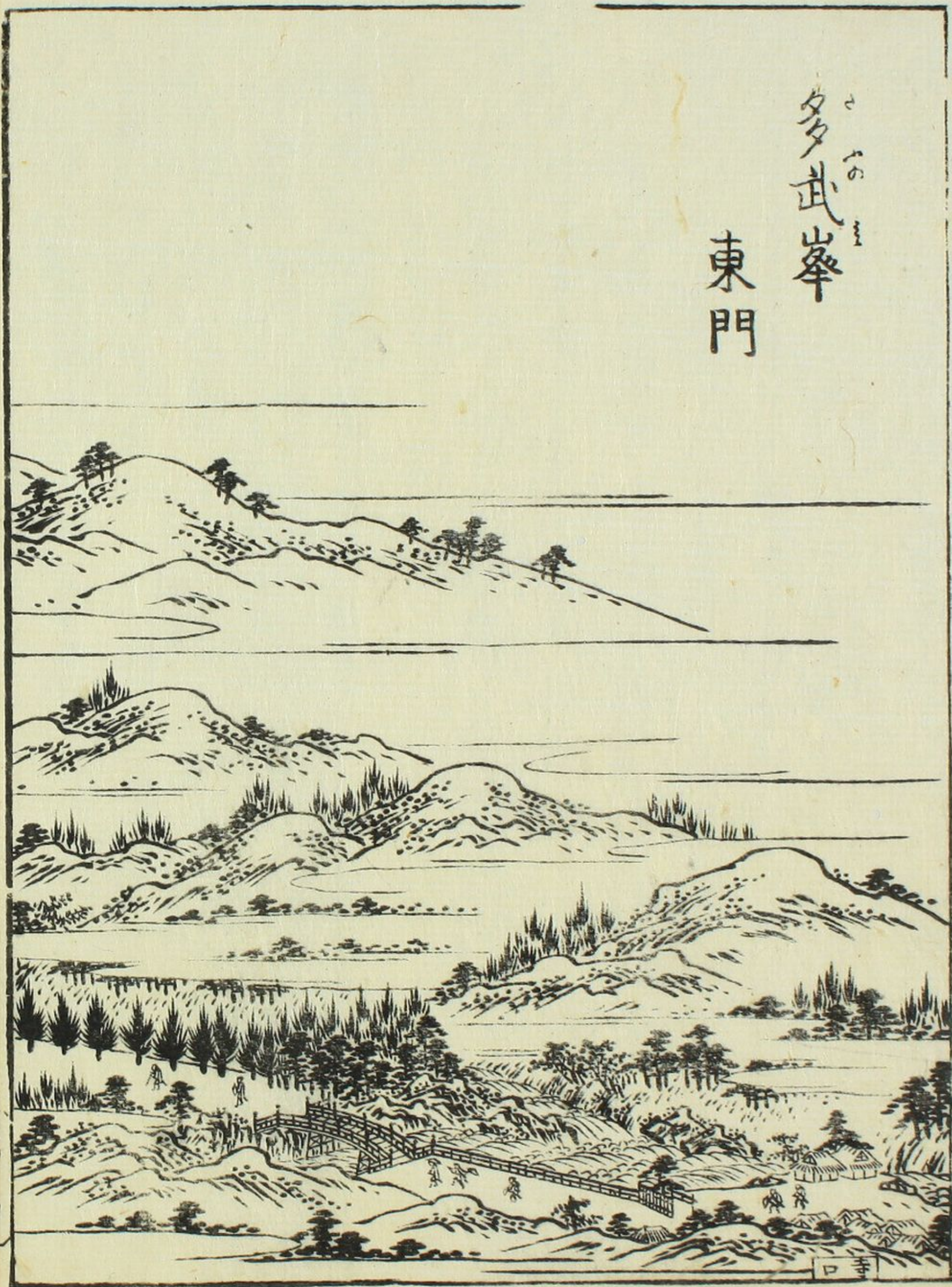
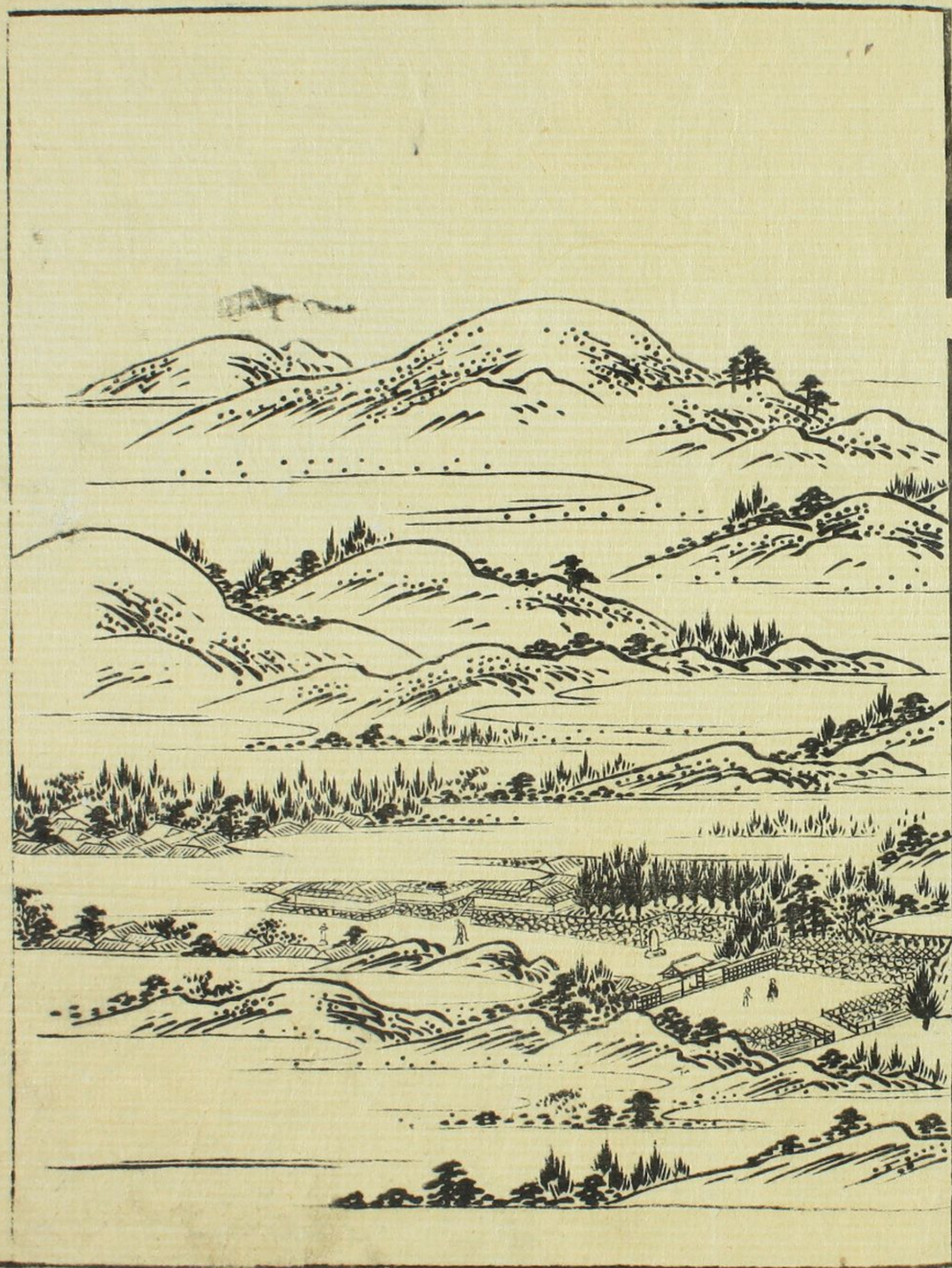
大織冠和尚在唐の時堯せとて接津國に感とありなり

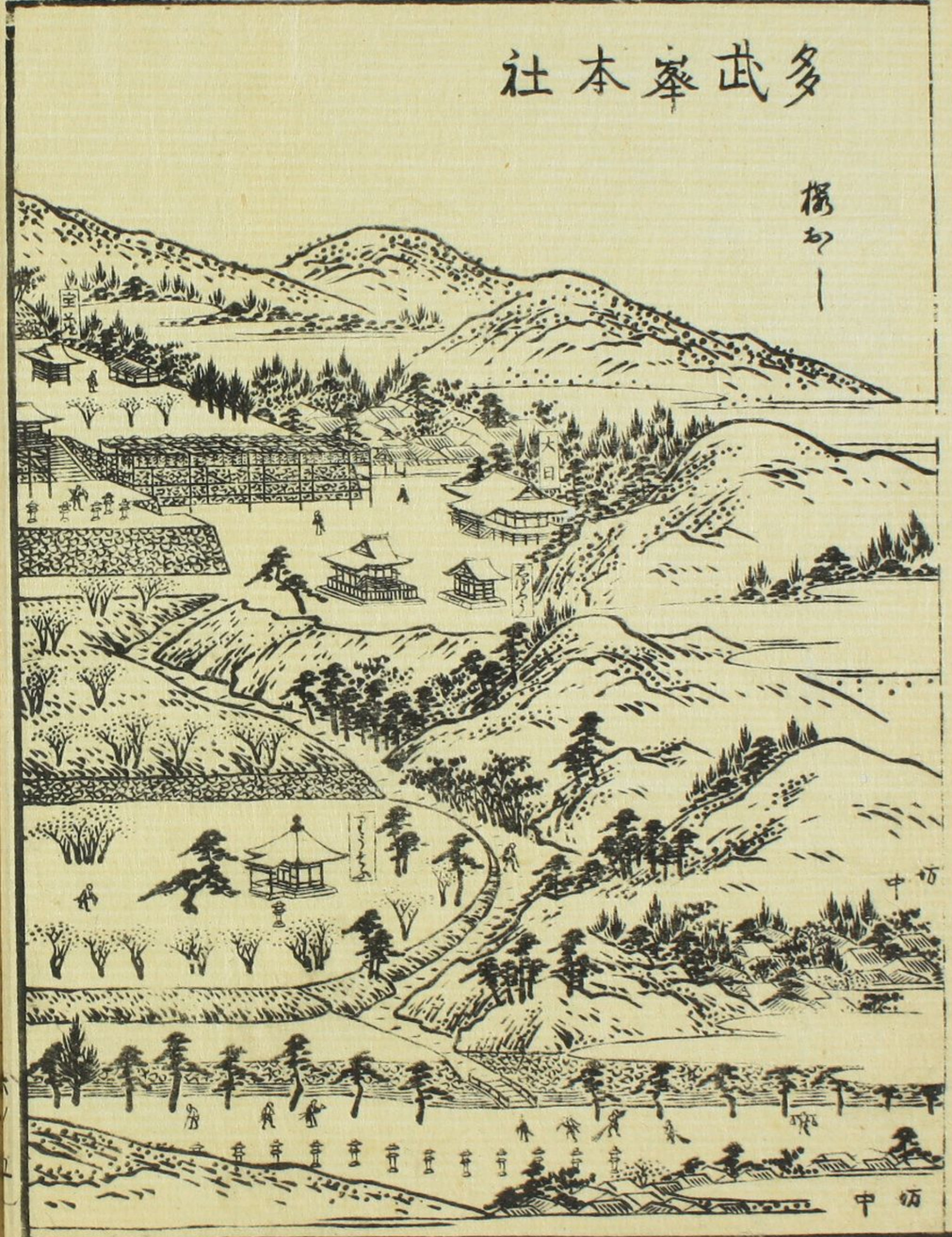
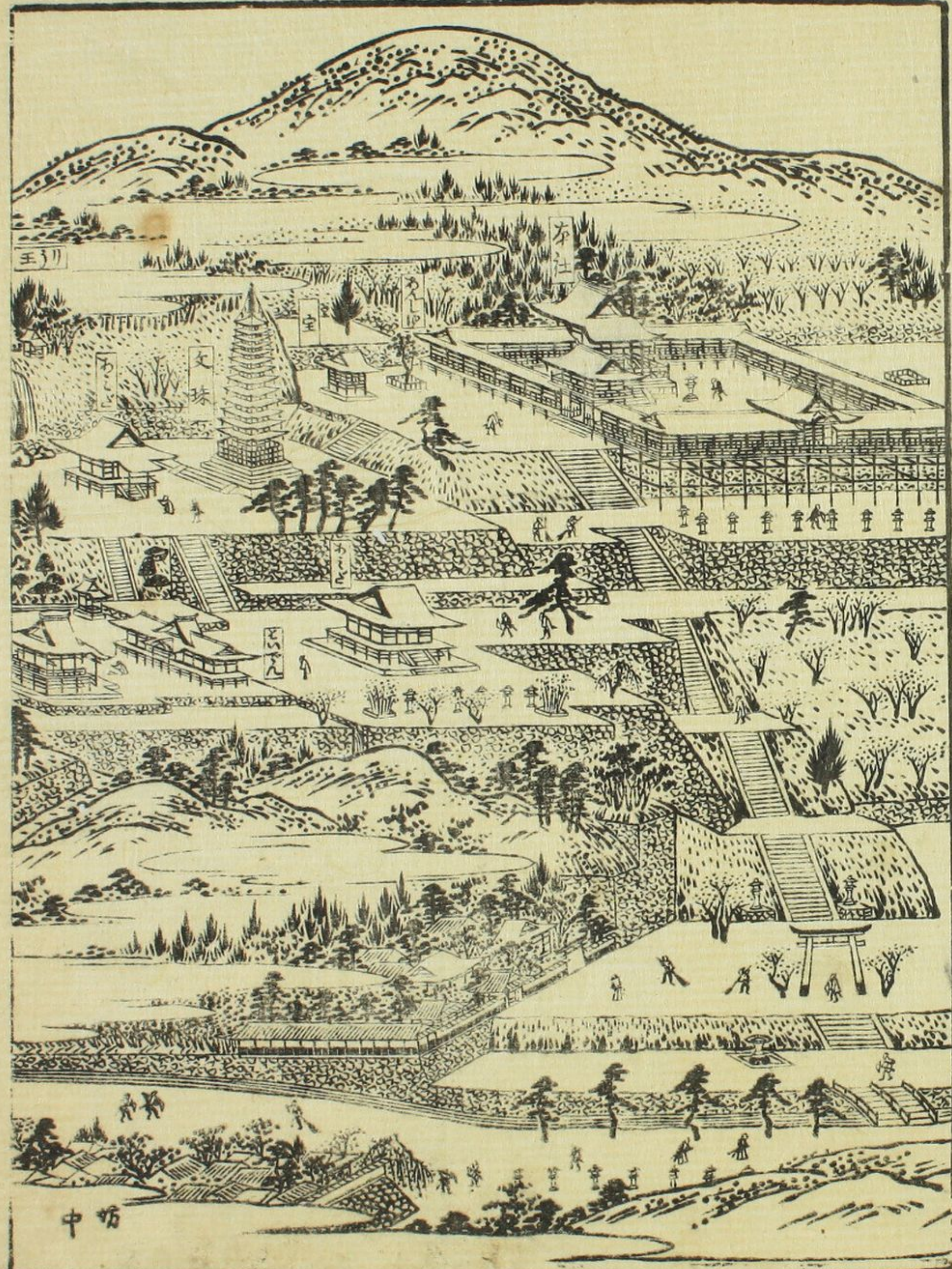
うらめりありと和尚といひてふと詞とて和別談家の靈



勝の區と後一五臺と小堂と我を叩く小華と云はば孫を  
くるとはあつたありつと中華小ありの時差んらるのあり我身を  
談家たんけに居ゐる大織冠おほいつむかひと云へるをひく吾われ今いま天上てんじやうに生ならうとけ  
地ち小堂せうたう塔たつといふと仁にん宗しゆと傳でんせし其時そのとき己おのれ巳ひ歲さい十月じふがつ十六じふろく日夜にちや二更にじやう之  
不比ひふ考かう先まづ君きみの薨しゆすれし其年月そのげんげつ日にち之の差さの平へいれと感かん後ご社しゃに  
ひくく之の志しありし和尚わうしやう威いふり遺い骸がいとて談家たんけ小改せうかい葬さう  
すれれば其その余あま未ま朝あさの塔たつと建たらるる小一重せういちじゆう不ふ定ぢやうと云いはれしひく  
と云いはるる小のそり塔たつ杖じやうをを小せう系けい下げ風ふうふさむひく飛と来きありし終はつ二  
十三重じふさんじゆう塔たつ成就じやうじゆと云いはるる文殊もんじゆ菩薩ぼさつと管かん化けありし安やす否ひひく  
釋しやく書しよ扶桑ふさう畧りやく記き談だん峯ほう畧りやく記き  
聖せい靈りやう院いんにに異い光くわう射しゃと云いはるる小のやのり不ふ現げんとてとり定ぢやう惠ゑ和尚わうしやうこ  
小の殿てん舎しゃをを建たはるる荷か西せい記き其その後ご真ま界かい大法だいふ師し長ちやう者じや自じ信しんと云いはるる小のの入にり  
一いつ之の津つ管かん造ぞうのの要やう記き大だい織いつ冠くわんのの像ざうにに近ちかづく圍いるる男おとこ九く折せつ造ぞうと云いはるる荷か西せい記き

又檢校けんぎやう千満せんまん法師ぽうし也なりなりとあり古ふる老らう相さう傳でん白はくええ男おとこ九く折せつ造ぞうのの像ざうに  
千満せんまん法師ぽうしのの法ぽうははししるる像ざう中ちゆう小せう叔しやくと安やす否ひとてとり神かみ階かゐ正せい一いつ位ゐ勲いん一いつ号ごう又また延  
長えんぢやう四年しよんねん小談せうだんと檢けん現げんのの勅ちやく號ごうと賜たまはるる荷か西せい記き其その後ご真ま界かい大法だいふ師し長ちやう者じや自じ信しんと云いはるる小のの入にり  
每ま小せう石せき標ひょうをを建たはるるはは華け表ひょう額がく談だん峰ほう大だい權けん現げん  
日光にちかう御ご門もん主しゆ御ご筆ひつ迹せき年ねん安やす丁てい酉う歲さい三さん月げつ塔たつと云いはるる小のの入にり  
妙めう樂らくと云いはるる小聖せう靈りやう院いんと云いはるる小寂じやく實じつと云いはるる小梵ぼん刹せつと云いはるる小心しんのの入にり  
香かうををたたかかと云いはるる小風ふうををたたかかと云いはるる小樓ろう門もん軒けんと云いはるる小寶ぼう閣かくと云いはるる小龜き  
くくと云いはるる小十じゆ二にのの塔たつ城じやうと云いはるる小眼がんをを鑑かんと云いはるる小拾しやく政せい左さ倉くら後ご承じやう  
伊い尹いんのの建たはるる小常じやう仍じやうと云いはるる小昧まい堂たうと云いはるる小世せ々々と云いはるる小級けい中ちゆうと云いはるる小定ぢやう惠ゑ和尚わうしやうのの遺い骸がい  
堂たう如にょ覺かく禪ぜん師しのの啟けい白はくと云いはるる小十じゆ余あま折せつ諸しよ大だい明めい神しんと云いはるる小鎮ちん守しゆのの神かみ祠ひら  
定ぢやう惠ゑ和尚わうしやうのの系けい創じやうのの講かう堂たう大だい納なつ言げん經きやう輔ほと云いはるる小長ちやう房ぼうのの法ぽう施せ乃なり  
溫いん室しつと云いはるる小手てををりり代だい々々と云いはるる小今いまと云いはるる小建たはるる小定ぢやう惠ゑ和尚わうしやう  
金きん堂たう實じつ性じやう僧しやう都とのの如にょ法ぽう堂たう村むら上じやう天てん白はくのの勅ちやく額がくと云いはるる小法ぽう堂たう者じや折せつ政せい右う上じやう人にん長ちやう  
伊い尹いんのの曼まん陀た羅ら堂たう山さん禪ぜん院いんのの勅ちやく額がくと云いはるる小堂たう座ざ主しゆ真ま界かいのの人にん堂たうと云いはるる小年ねん  
諸しよ伽か藍らんと云いはるる小武ぶ家け記きと云いはるる小其その外がひのの





多武峯本社

標印

中坊

中坊

多武峯

西門



大織冠の尊像は天下小凶事ありて被割りて今所永承元年正月廿二日右方の所西額四寸余破れ給ひしより已来文治三年まじく十二ヶ度あり其後とまじに被割の度毎に奏しんて恩の旨を勅使登りてありし宣命はうらみたるに必しとてのめく念をせりてや畧記  
再興の白河院永保元年三月八日田原のうらみ書にうらみ其後再興のうらみ  
ふるの院天仁元年九月十日貞福の衆徒塔起りて火畫しりて炎上せり  
其後再興のうらみ倉院永安二年六月廿八日貞福の塔起りて炎上せり  
同所宮治承元年十二月二日齋院ありて十二を塔起りて預まらんと和  
國彦俊佐人右馬允齋院あり其後寛文七年公榮の公始りし  
今のめく所造堂あり  
郡之雜記云々武家大織冠の社が郡之遷りて天正の末あり其新と今も  
大織冠とてし人又城内に大織冠とてし樹あり所田右衛門尉郡之在城の  
附け社が人多く武家なりしと  
是處長の時よりあり  
開基定慧墳當ちのあり碑曰く唐末法也定恵和尚七年六月廿八日春秋  
七十殯座遷化云々城圍は藩寺とて塚あり  
そし定恵和尚の孝徳天皇の妃所着帯六月に成りてあり  
帝大織冠とてしうらの妃とていゆふえをあん出誕の後女  
あつて朕子とせん男とていゆふえをせん勅がうけ月満りて

男子彦彦とて人尋大織冠の子とてし門惠院の貴子とてしうらみ  
ある定恵とてし秋所母車持夫人車持國子の女あり  
増賀上人墳當ちのけし上人の泰儀正四位下橋恒平の子とてしうらみ  
利といひ位官の昇進とてし或時内論義の絶りありし  
あつて巧人にてしあはし争ひ念がとてしけり又解ふあつてし  
慈恵の僧正住持とてしのお駈にとてし干鞋とてし刀ふらた骨くさり  
ある女斗ふの志あつてし太皇太后の戒受ありてあつて宮中  
坐り兼若か吐くまゆられ拾遺に佛の肉眼ふまひてゆきは梅い  
あつてし七宝とてしうらみとてし其後規則より下向の道とてし眞標  
ふありし敷ふふとてしそれより武家にこりかへりて衰老りし時  
たひり其若盤ふむし生ける死せるそとちあつてあつてし  
障匠とてし胡蝶の舞ふ社にひりてうらみとてし井子あやみいふ  
とてしひりて我初がし時三事とてし徳らむとてし止りて念ふ

長保八年六月八日  
長保八年六月八日  
長保八年六月八日

如覺禪師墳 叙書往生傳發心集  
如覺禪師墳 叙書往生傳發心集  
如覺禪師墳 叙書往生傳發心集

母延喜帝の皇女前齊宮推子内親王より童女をまうあかき若くそ  
母延喜帝の皇女前齊宮推子内親王より童女をまうあかき若くそ  
母延喜帝の皇女前齊宮推子内親王より童女をまうあかき若くそ

たふあひなりさりの時を東よりおりのゆきとほぐみとたのく  
たふあひなりさりの時を東よりおりのゆきとほぐみとたのく  
たふあひなりさりの時を東よりおりのゆきとほぐみとたのく

少くもほひてその曉に家か出法師にさりかひふけり帝とらみ  
少くもほひてその曉に家か出法師にさりかひふけり帝とらみ  
少くもほひてその曉に家か出法師にさりかひふけり帝とらみ

都よりまの八をさの奥の横川乃軒とらみよひか  
都よりまの八をさの奥の横川乃軒とらみよひか  
都よりまの八をさの奥の横川乃軒とらみよひか

加佐、赤山 紅葉洞 共小けこの異名とて  
加佐、赤山 紅葉洞 共小けこの異名とて  
加佐、赤山 紅葉洞 共小けこの異名とて

淡海公墓 贈大正一位淡海公は吉老四十年八月一日薨一  
淡海公墓 贈大正一位淡海公は吉老四十年八月一日薨一  
淡海公墓 贈大正一位淡海公は吉老四十年八月一日薨一

若櫻神社 若井の谷邑小あり今白く権現と録  
若櫻神社 若井の谷邑小あり今白く権現と録  
若櫻神社 若井の谷邑小あり今白く権現と録



撰集抄曰  
 此乃 嵯峨 聖人の入る  
 いまをくりにけりいしむあり  
 けりし道は八の七の香  
 との根を中堂ふ千夜  
 こりてわらひけれ  
 さは実のんやをこて  
 作りけん 中畧 終ふ  
 大和國多武峯  
 けり所にこそなる  
 入る 嵯峨 聖人  
 の 跡 の や せ かり  
 けりし 道 居 けり  
 し ね へ けり



等彌神社 橋井の谷邑の南小あり

高屋安陪神社 安倍松本と小ありし一辺の若松社の傍にうのり今

用明天皇陵 谷長門二村の界小あり

東光寺 橋井村小ありむろの磐余堂又ハ櫻井と號し大永大正乃ハ

光明寺 橋井村小ありむろの磐余堂又ハ櫻井と號し大永大正乃ハ

上官 上官村小あり上官をこの短名ひ一筋ハ其後ちとがし上官と號し

栗石 栗石村の上方小あり一名本村ハ 墨染櫻 栗石村小あり

下居神社 下村小あり村名此三代実旅出

倉梯 倉梯村の上方小あり此の谷小倉と云

倉梯 日本 倉梯 古事 紀 倉梯 三代 實旅

倉梯のふかこの夜こりりふかこの月乃行待張

たぐの光衰たりとてふ小株のふかこのとめてん

竹の物

二代實旅白貞觀十一年秋七月八日十部郡掠橋山河岸崩裂高二丈

深一丈二尺其下有鏡一面廣一尺七寸採而獻之

掠橋川 城上郡と云むと云ハ城上郡に於て入

崇峻天皇陵 倉梯村小あり此の岩屋と云ハ陵圖考曰

ハ八尺様こ八七寸厚九寸練石なり

下居里 下居村之崇峻天皇居倉橋宮に於てあり

七ツ井 安部村小あり七ツ井小橋

音石 音石村の上方小あり

音石寺 南音石村小あり一名音石寺と云ハ

萩田寺 萩田村小あり一名萩田寺と云ハ

田寺 田村小あり一名田寺と云ハ

東大谷日女命神社 田村小あり今ハ橋と號し

七ツ井 安部村小あり七ツ井小橋



安部文殊堂



阿部山崇教寺智定院信持人皇二十七代孝德天皇天化年中  
の草創あり本尊文殊六士ひじく寺中小光あり時小川人小光  
初石窟小也の海ける者ありまをりてこれかはん日量す分の  
美念の文殊の靈像いす温るる人の膚の如く尋られば感  
得し安陪小安と後小安の絲ふを佛量九尺乃像か  
ほくめの靈像を眉向小彫籠りを利生夜く小わく  
く小如驗目々は奥列永井丹後列切門和列安陪うら  
奉朝文殊六士遠遠邊の信人湯作ては入米ふ  
いあり一大日如本尊を今大日堂これ之文殊堂を別  
院満願寺と號と  
中興の向基遷覺門を豊後國の人之兼曆二年安陪小茶室か  
心小前非とみ一頭密とはふもたしが保延六年衆僧ととと  
佛號と稱ふく小陀が膽作し七塔くも月ふとさくは終小塔居  
入寂せり其後二十七日分終りとも印も更にみずれと遺言

入寂せり其後二十七日分終りとも印も更にみずれと遺言  
小志くひく佛堂の下小納り肉才やぶとは今くいまらしし  
釋書小く九十一  
文殊大士天遊りの初ひ石窟と堂の巽小あり  
池邊雙柳宮安部長門の論ありといふ日本紀曰用明天皇元年盤名余雙  
盤名余池盤名余坪  
後拾是坪のたれ初後分りと哀せし坪のんととをとれ素意法師  
後拾是初は初後小らみせん勢ふくいと是の坪乃杖の夕と也と後拾是坪  
後拾是あの小の盤名余坪のの世存たるともあらばとも遺跡は後拾是坪  
後拾是うた世にいつとれ池のまがういとく乃は深くもあらば二言法親王  
彩拾是勢のいのの世人の杖もたを思ふ人ももみつるかとも後拾是坪  
王德官以皇廿七代繼體天皇の禰兼宮ありと同時なりと三上  
の首城一都かうのは十二年一入みやが國に  
ととはづけとの日を紀ふくとらしし  
盤名余の王德官



土舞臺

後門村の... 土舞臺と云り... 推古天皇... 國の姓樂...

阿倍

夫本集小大和國... 阿倍橘... 五妹子小不相久...

安倍島

勅撰多所集... 安倍島...

風雅

あべ島の... 玉勝る... 新撰...

雍栗宮

清寧天皇... 雍栗宮... 白香谷...

稚櫻宮

沈内村... 稚櫻宮... 日本紀...

神磯池

沈内村... 神磯池... 日本紀... 日本紀百八代履中...

十月殿

余小皇居... 十月殿... 兩枝舟...

花

花ちり... 長直膳... 櫻...

宮

宮の名... 櫻...

香久

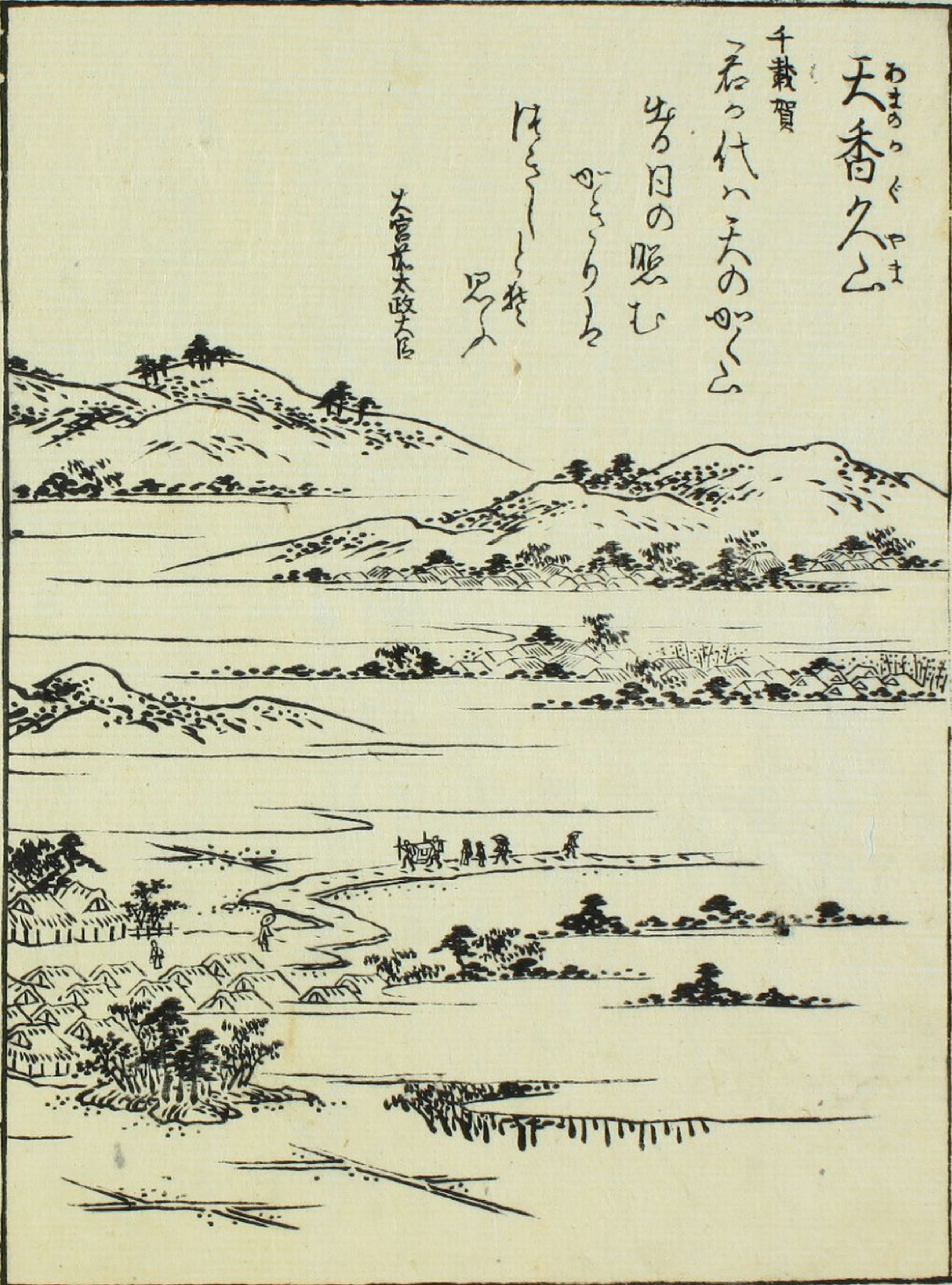
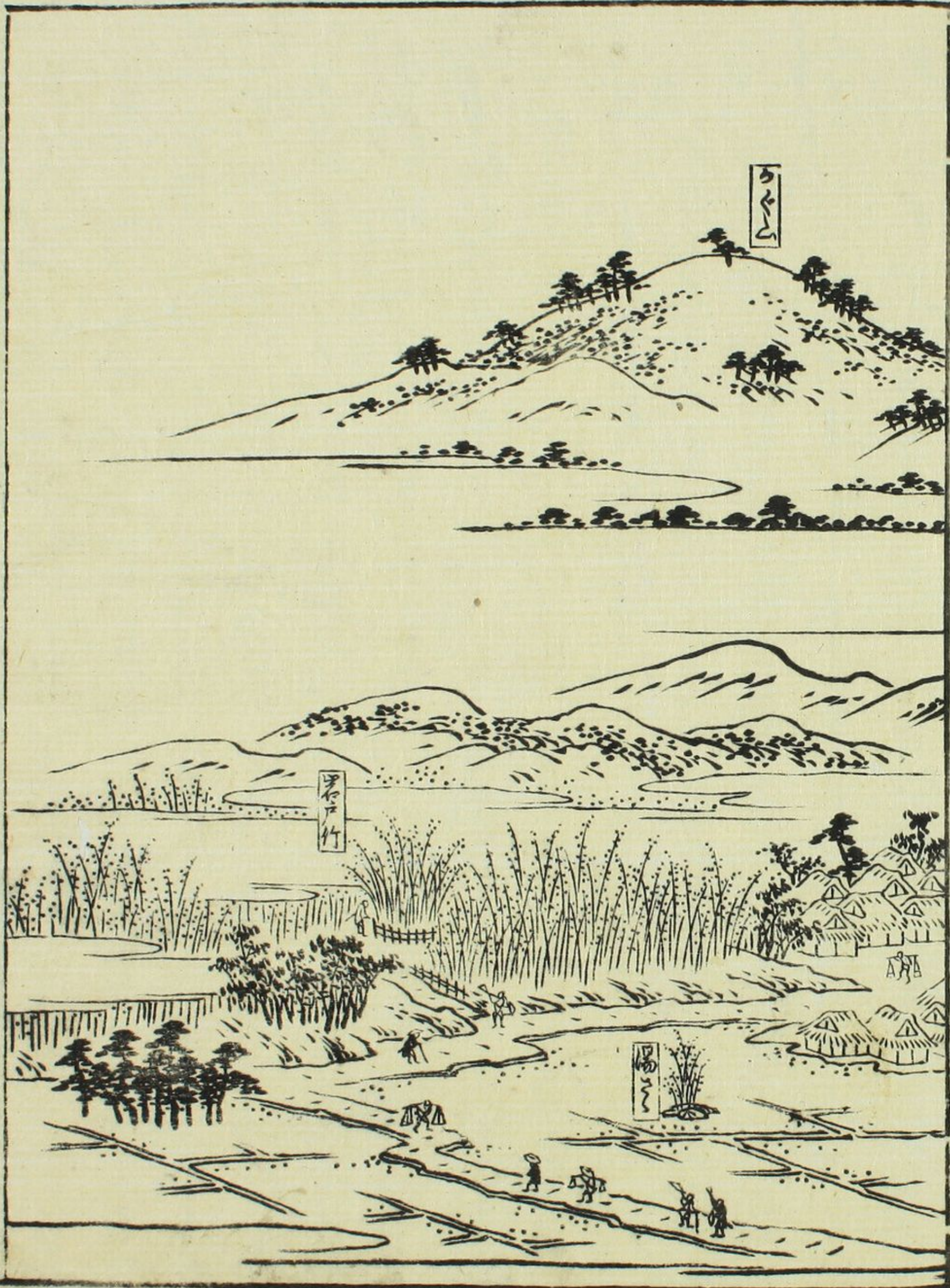
香久... 興善寺... 文殊院...

文殊

文殊... 文殊大... 安...

二階堂

二階堂... 天香久... 創...



わまのりくやま  
天香久と

千載賀

君の代は天のめぐと

歩の日の照む

あまのりく

ほろりく

思入

大官長太政大臣





古今著  
 月  
 かの  
 の  
 くらか  
 え  
 思れ  
 下塚に  
 漢人



耳成山  
 心ゆふ  
 かげり  
 くら





天香山坐柳真命神社 香具山北の麓小あり南浦村小属と北浦村と称するの

植安池 南浦村小あり今後池といふに伝説あり大和國うりしを

畝尾健土安神社 下尾村小あり今大照を社と称す

啼澤社 本村小あり舊事紀曰啼澤社に香山の畝尾の樹下に坐しを

哭天澤の神社 小田舎といふは我王者高日若乎

畝尾都多本神社 啼澤社小あり

膳夫村 安陪ふり三軒ありの膳女といふは井つとく冷水あつとくりは里

吉備の別業 吉佐村大福村 今小芝村と云ふ

耳成山 成山といふ無名なる山なり今小田舎といふは

後撰 此の山は耳かといふ山なり今小田舎といふは

耳か 耳かといふ山なり今小田舎といふは

施子 施子といふ山なり今小田舎といふは

大和 大和といふ山なり今小田舎といふは

耳無川 耳無川といふ山なり今小田舎といふは

六帖 耳かといふ山なり今小田舎といふは

耳梨池 耳梨池といふ山なり今小田舎といふは

いかり いかりといふ山なり今小田舎といふは

備前 備前といふ山なり今小田舎といふは

耳か 耳かといふ山なり今小田舎といふは

耳無川 耳無川といふ山なり今小田舎といふは

いかり いかりといふ山なり今小田舎といふは

備前 備前といふ山なり今小田舎といふは

耳か 耳かといふ山なり今小田舎といふは

耳無川 耳無川といふ山なり今小田舎といふは

いかり いかりといふ山なり今小田舎といふは

備前 備前といふ山なり今小田舎といふは

耳か 耳かといふ山なり今小田舎といふは

耳無川 耳無川といふ山なり今小田舎といふは

いかり いかりといふ山なり今小田舎といふは



耳成山口神社 耳無と新賀北八本石原常盤葛本と坊々の氏神

耳無行宮 本原村舊址之推古天皇九年 耳無井 耳無とこの

美作池 内膳村 葛本神祠 葛本村小あり

常盤里 耳無とこのひくしあり藤原州大和國といふ

秋そとものりなれ里人かうとやも小や夜をいらん 佐藤

草根 ぬんかたはてはのねけりあふとこの里そとをいふ

按小撰集小常盤山常盤社多かふる奇多一と誠國より

猛田原 東竹田村小あり神武天皇八十象師と誠國より

竹田神社 東竹田村小あり今二十八所社と称は

坂門神社 中村小あり今 御厨沈 十市村

十市御縣坐神社 十市村小あり今十二社と称は

笠縫邑 十市新本二村の向小あり小洞あり

十市里 一と光す 十市里兼井

新本 今よりて悟念をのれとから里乃信うり一と

今よりて悟念をのれとから里乃信うり一と

今よりて悟念をのれとから里乃信うり一と

今よりて悟念をのれとから里乃信うり一と

今よりて悟念をのれとから里乃信うり一と

今よりて悟念をのれとから里乃信うり一と

千代神社 八條村小あり今八幡と称は

屋就神命神社 大堰村小あり今八劍と称は

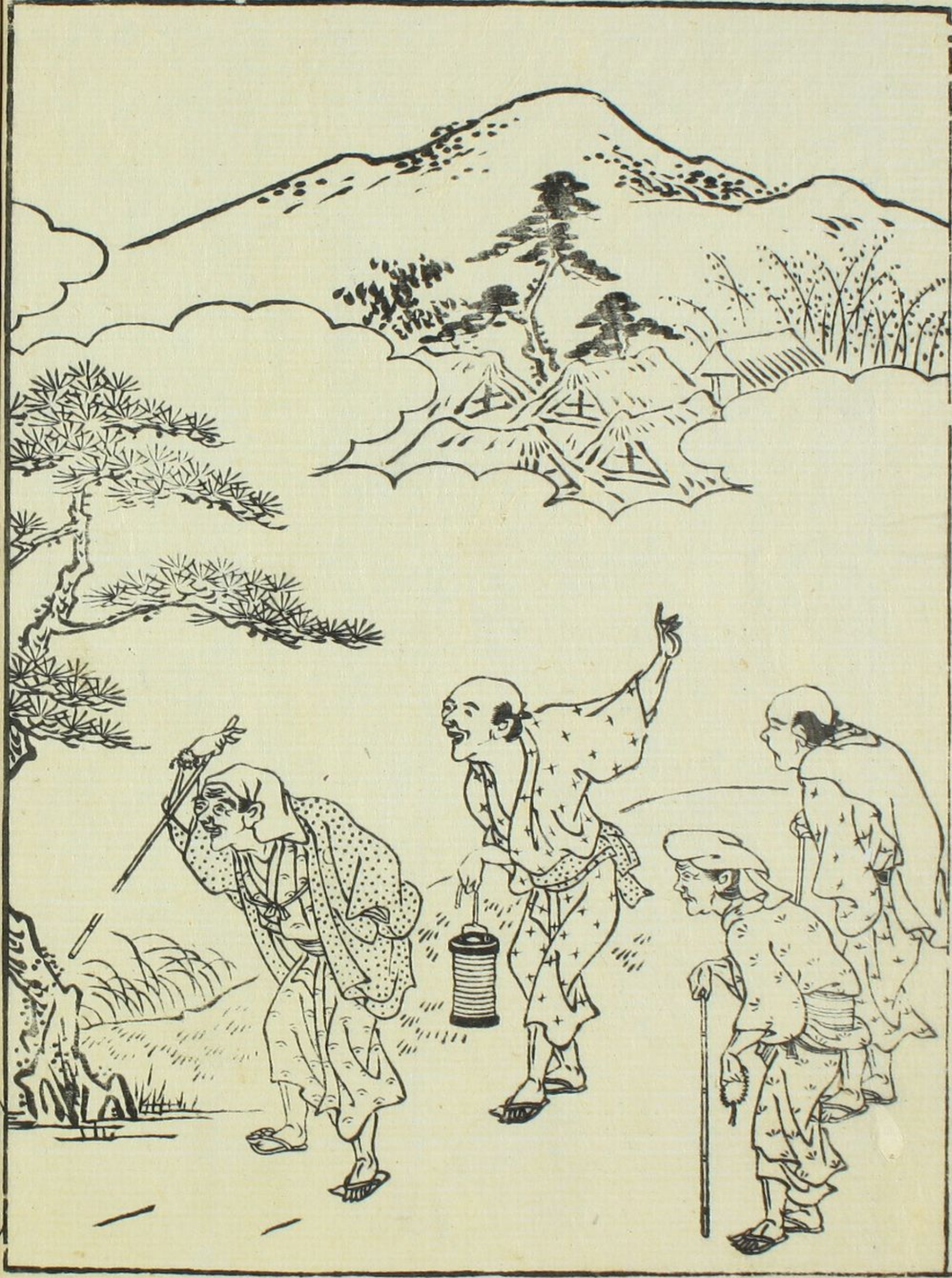
鏡作伊多神社 藤津村小あり信小鏡作あり

多神 多村あり額一等正一位多々大明神と書は

姫皇子命神社 多社の東小あり 小杜神命神社 多社の西小あり



千載  
 落くかゝ痛うり衣  
 いそげきも  
 とらの  
 ねへの  
 夕ぐれ  
 従三位宣子



吉所郡 東へ勢別 飯高郡 紀州年婁郡 至る西南へ 紀州年婁郡 日高郡 伊都の隈 至る北 宇陀 高神 十社 宇智乃四邪

他邪小とくなく 勢大なり

神武天皇 吉所小至る 光あり 井中より出る人あり

天皇より反問 母と何人を對し 曰臣は足國 計り名は井光

とくんと則吉所首部の始祖なりと云

小川瀧 吉所郡 小川莊 龍村あり 高見との龍公 遠く去る國 極小

洛陽清水寺舊址 或は津川と吉所郡 龍村の 小川あり 高見の龍あり

の舊址 小川あり 小流の 延鎮 龍村 居士 龍を 津川の 上 金を乃 出ん

又は 龍村 龍を 龍と 別は 津川 あり 釋書 龍 龍川 龍と 龍あり

高見の龍 龍に 至る 五十余町 あり

天狗巖 獅子巖 冠岩 小あり

高角神社 龍谷村 あり 龍を 龍と 龍あり

龍巖 龍谷村 あり 龍を 龍と 龍あり

和佐羅瀑 龍巖 小あり 龍を 龍と 龍あり

海部峯寺 龍巖 小あり 龍を 龍と 龍あり

龍門山 龍巖 小あり 龍を 龍と 龍あり

懷風藻曰 葛野王 遊龍門山

命駕遊山水 長志冠冕情

安得王喬道 控鶴入蓬瀛

龍門瀑 龍門山 あり 龍を 龍と 龍あり

伊勢家集 龍門山 あり 龍を 龍と 龍あり

小川あり 龍巖 小あり 龍を 龍と 龍あり

たのあり 龍巖 小あり 龍を 龍と 龍あり

くく 年つり 龍巖 小あり 龍を 龍と 龍あり

おろ 龍巖 小あり 龍を 龍と 龍あり

らるるの雨やうんとうんとうのふあかしくいそだつた雨を  
ふくくおふとくしんぼふおふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

たらぬふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

古今集小右のそふ載らとくりく或説云ゆら井のそふふ龍門  
ふりのりける秋のふふふふふふふふふふふふふふふふふ

後拾遺

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

千載

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

名寄

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

頭注密勅曰

はあを大和勢門ちの龍ふふふふふふふふふふふふふふふ

今昔お昔

ひうく久米といふもの若孫那龍門寺ふふふふふふふふふふふ

空宗飛りける

全文高市郡久米の

龍門溪

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

吉孫口神社

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

高梓神社

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

龍門山城

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

龍華臺院

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

鳥宿山

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

龍門池

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

龍在城

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

大持神社

ふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

拾遺

たふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふふ









吉野川

多原大基源と下りふぐまき。鹽葉。伯母谷。和田。多古。白川。彼。人。婦。大。國。抽。極。危。な。居。る。東。川。小。至。信。舊。名。遊。副。川。古。人。詠。題。と。り。折。り。さ。り。上。不。六。田。土。田。下。新。住。多。か。経。居。し。く。智。川。小。入。和。州。巡。覽。記。曰。吉。野。川。の。水。上。は。好。む。む。む。の。志。川。下。流。と。よ。

ゆけ舟のこころは一折ありあけくはせ舟を舟へ祖風よふ東へ  
もまぐさづねく宮川のあうささるる東風くけむ吉野川乃あ  
まさら小風よふ能野のふあまきこころ故ふ東風烈しけしを  
雨くさくさくも吉野川のあまきこころ上り下り下りこれ  
つらり廣く末と紀の川より紀州和方浦へ也

古介 貴之  
新靴 志陽門院  
僕後撰 延喜寺製  
口 日 入道  
吉野川つらりもみゆけ夕暮ふさるる波はあまきこころ  
かへん小まきやうらんみゆけ吉野川小橋ふさるり  
うこれ海峯の歎を吹風小座の敷をらんらんひふかり  
うこれ海峯の歎を吹風小座の敷をらんらんひふかり  
うこれ海峯の歎を吹風小座の敷をらんらんひふかり

猪養山

上多村の川 櫻流 池田村小あり  
向い小あり 吉野川に隣り

本善寺

飯貝村小あり 親鸞聖人八世蓮如上人の建立なり 末師飯本願寺小  
常任物明應七年二月 實如書とて見へり

六田淀

六田村小あり 吉野の繁小あり 西之柳の宿とて見へり  
万葉 吉野川に隣り

吉野水分神社

丹治村小あり 毎歲四月吉野と傍奉りく社あり  
六帖 櫻流の宿とて見へり

一之坂

吉野の記 一の坂といふ一の坂 本道の坂といふ

二芳野の櫻一本小せんんきく山口志あけ白くまきく也

大納言 雅章

四掛神祠 七曲の榊

吉野紀り 四掛の榊は吉野の  
吉野紀り 四掛の榊は吉野の  
大納言 推章

芳野の花のいへてうはほもやこね神の心とてしは  
多分 吉野紀り 四掛の榊は吉野の  
大納言 推章

神さづかるるに已凝敷きし時の名をふかふか悲し  
新撰撰

二芳野の名をふかの龍津瀬末とひの流之たり  
吉野紀り 四掛の榊は吉野の  
大納言 推章

丈山一藏王堂 吉野紀り 四掛の榊は吉野の  
大納言 推章

長崎薬師堂 一藏王の 文禄二年二月廿八日豊后秀吉公吉野乃  
松山茶屋 松山茶屋 松山茶屋  
大納言 推章

千本櫻 吉野紀り 四掛の榊は吉野の  
大納言 推章

吹はせしるるいひ吉野とふ本小句花の春風  
大納言 推章

富士と名花一時乃しりのや備  
鬼貫

花さりの山と目と人のねほろろ  
もさか

あふはくしとさるる花のうししけ  
貞空

日本花 七曲の榊は吉野の

七曲 足より多武家のねほろろ 巡遊記曰吉野と小少少  
大納言 推章

の方より吉野の所へさるるをさるるをさるるをさるるを  
大納言 推章

とらんまつらん人々  
大納言 推章

日本七曲の榊は吉野の  
大納言 推章

花の山と櫻田は谷をさるる小流と松みさふとの井あり  
大納言 推章

みよしは家の花の山と梅ふくらのまの夜乃月  
入道 推章

吉野と許の榊は吉野の  
大納言 推章

みよしは家の花の山と梅ふくらのまの夜乃月  
大納言 推章

藤尾坂 俗小巖井坂といひ文治元年十一月十七日源義経の愛妻  
大納言 推章

大橋 豊臣秀頼公の  
大納言 推章

東鑑 大橋 豊臣秀頼公の  
大納言 推章

元弘二年正月十日  
 大塔宮を討つ  
 六萬餘騎を率ゐて  
 攻め入り大塔宮の所遣  
 小笠原の七郎血の流るる  
 所をわたり新へ村上を  
 義輝の所遣を賜り  
 官の所遣を賜り  
 故に大塔宮を安んず  
 蔵王堂のあたり高天櫓  
 に上り後十文字に檢切て  
 伏ふに後十文字の英  
 雄はくも漢の元信  
 にも似たり



櫻山嶽 後井坂の

金鳥居 額を發心門とせしむ弘法大師のまうり

千載 後さるむその境を山不との園をもては法のとりひ 養老敦光

二天門 金剛力士の二天門

金峰山寺 六田より櫻山嶽の 本堂藏王権現 佛量二丈 脇士九

觀世音 二丈八尺 右弥勒 二丈 後行者遺像が安坐は是當の因基

あり其外觀者堂講堂僧舎四十一區吉水院實城院を俱り

後醍醐帝の仍宮へ大塔の址を本堂の西小礎石あり兼曆二年

十一月金峯との塔供まゐりの釋せしむるなり又藏王権現に定朝調

進せし柏大殿の上小啖合と大なるあり威表記のせしむるなり

又貞和元年正月十日然後より所奉武藏寺所直奉ある所小帝へ天

川の奥賀多屋の名を流さるるをひしむるを焼拂とて皇太后卿

相言交の宿所小火なるなり後小式大入の金峯右金剛力士の二階

の門北野天神社七十二間の廻廊二十八折なり小藏王堂一肘小々入

アとありしとを正記小々入り共より年経て豊后秀吉公の時

諸堂をせしむ成就とて修せしむ

威徳天神社 本堂の右すまむ 北野天神満宮とてはさるる天慶元年八月

一日日藏上人金峯との岩窟あり威徳天政天の信を小あひなり

神勅小々入りしむ菅神の所住所小至し修くの神詔公蒙て我名

を唱へて存す信をたつとては権護とて示現ありて上人と

金峯と小峰と當社を造立し威徳天神宮と稱せしむる

釋せしむるなり千躰地藏尊とて忠信都の化あり天神社の信小

あり又稻石社毘沙門天の社あり四本の櫓へ藏王堂なりなり

ありて大塔宮とてせしむる殊樂公奉しひしむる所とて

四本のさるる小蹴鞠の興かありしとて

吉井記の ありの場小々入りしむるを四本の櫓とてしむる



吉野山 六田飯岡より  
大家小藤に至る

影捨  
久々これ  
川波きり  
みよき  
六田此  
淀の  
六月雨乃  
義詮

四方門下  
うらま  
くわ  
くわ  
くわ  
くわ  
くわ  
くわ

五  
六  
七  
八  
九  
十

高  
森  
城

六  
田

上  
川

市  
上

下  
川

町  
甲

市  
下

村  
乙

上  
川



散々や  
 谷々  
 さくり  
 奥つかむ  
 淡々

千本橋

同本

曲七

七

八



千本橋  
 日本うた  
 あらうら  
 漢千載  
 一のこ  
 峯、危くして  
 り、危の  
 つまらぬ小  
 花の  
 まるま  
 中宮

千

茶所

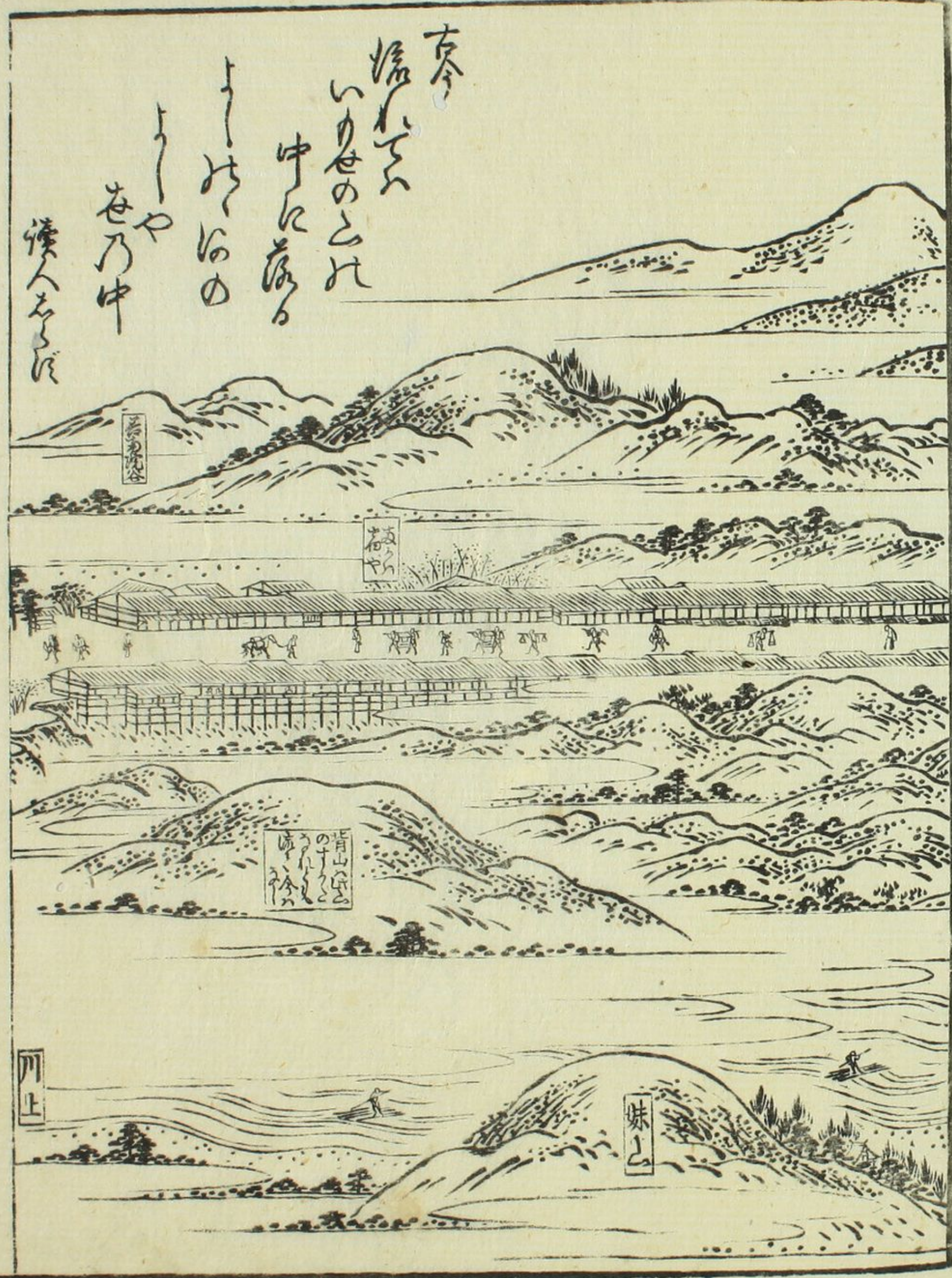
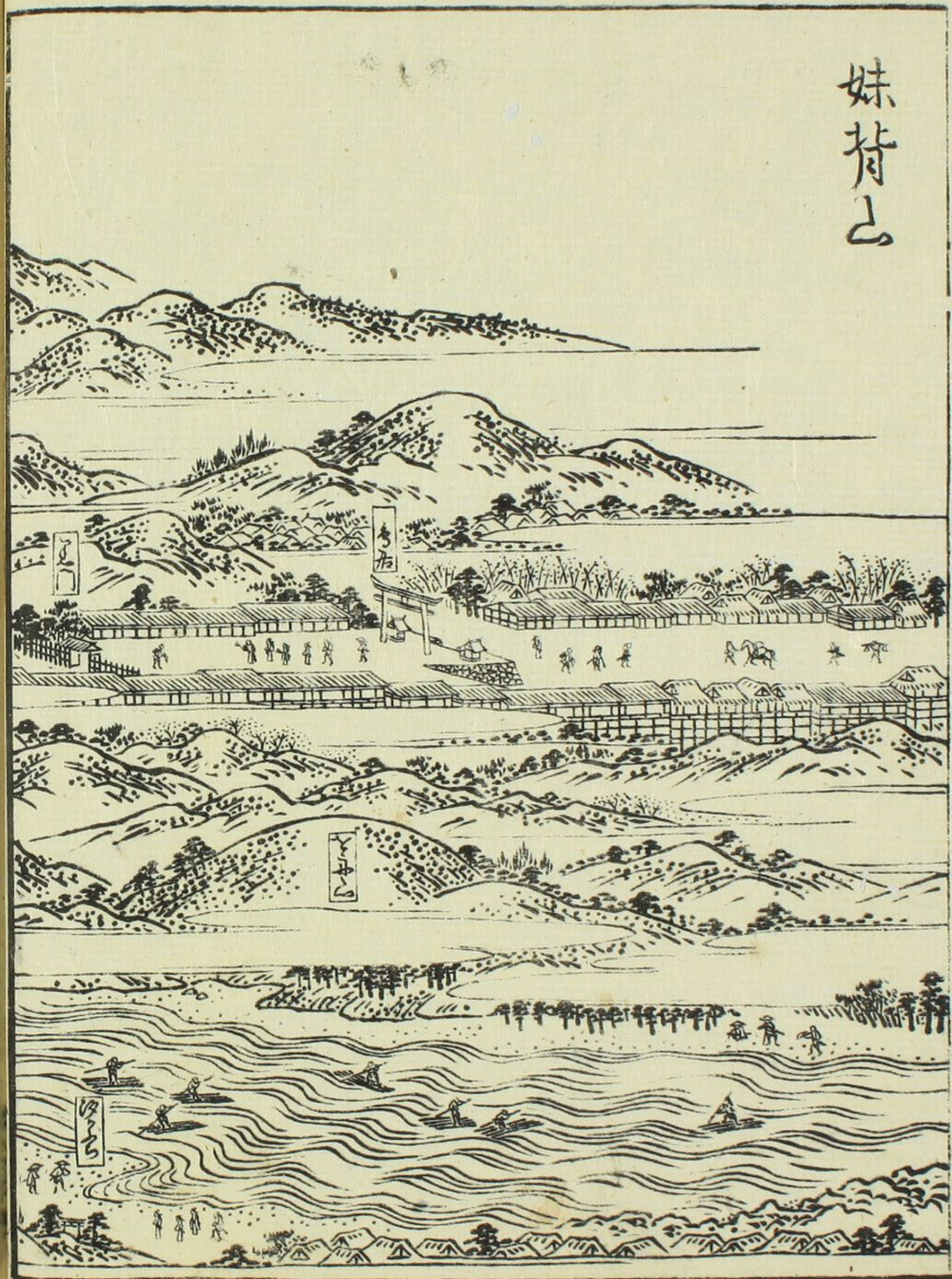
田手

寺園

社

川

妹背山



古今  
いづれのとれ  
中なる  
よき川の  
よきや  
巻乃中  
懐人なる

山

山

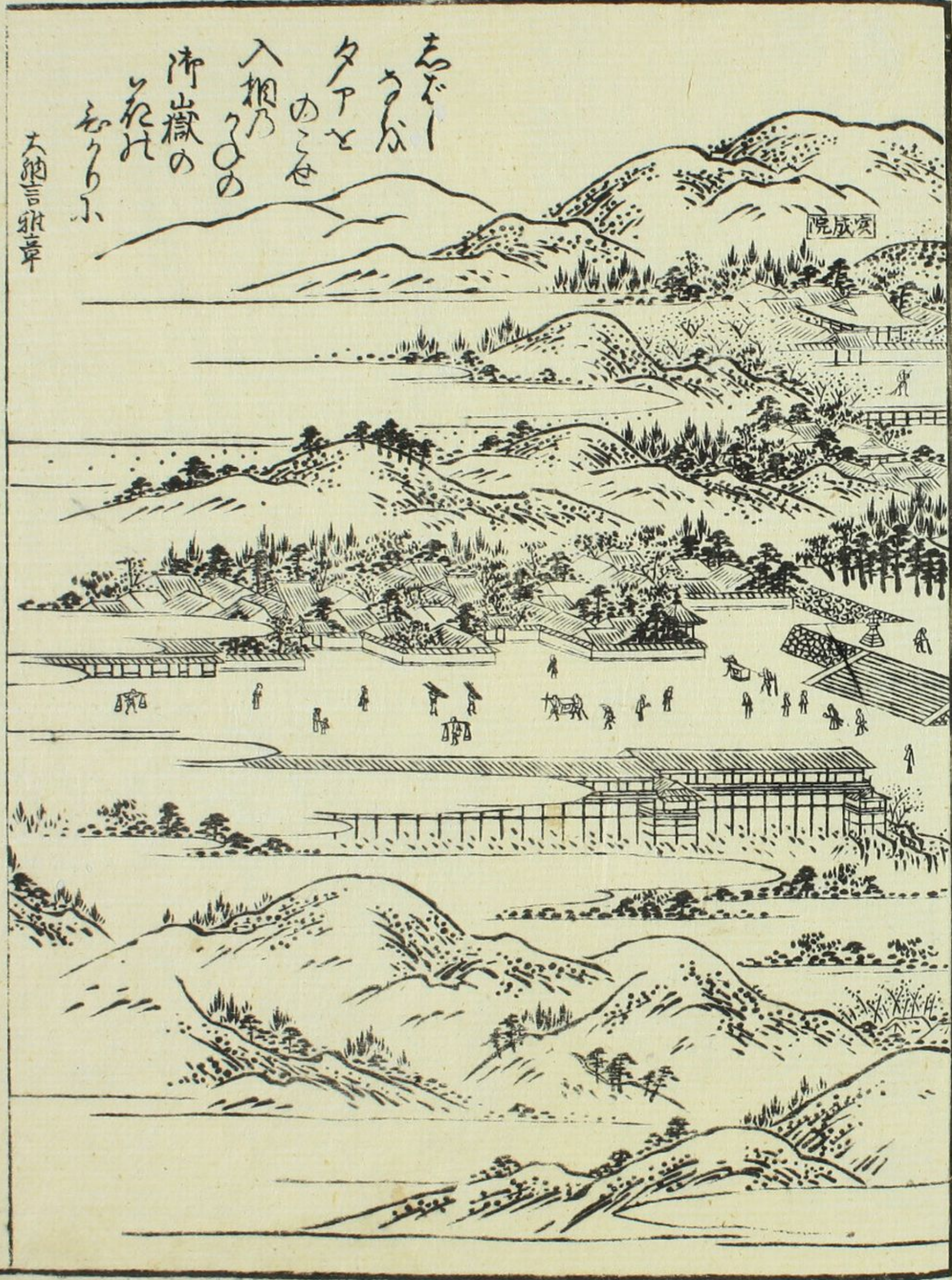
山

川上

妹背山

山

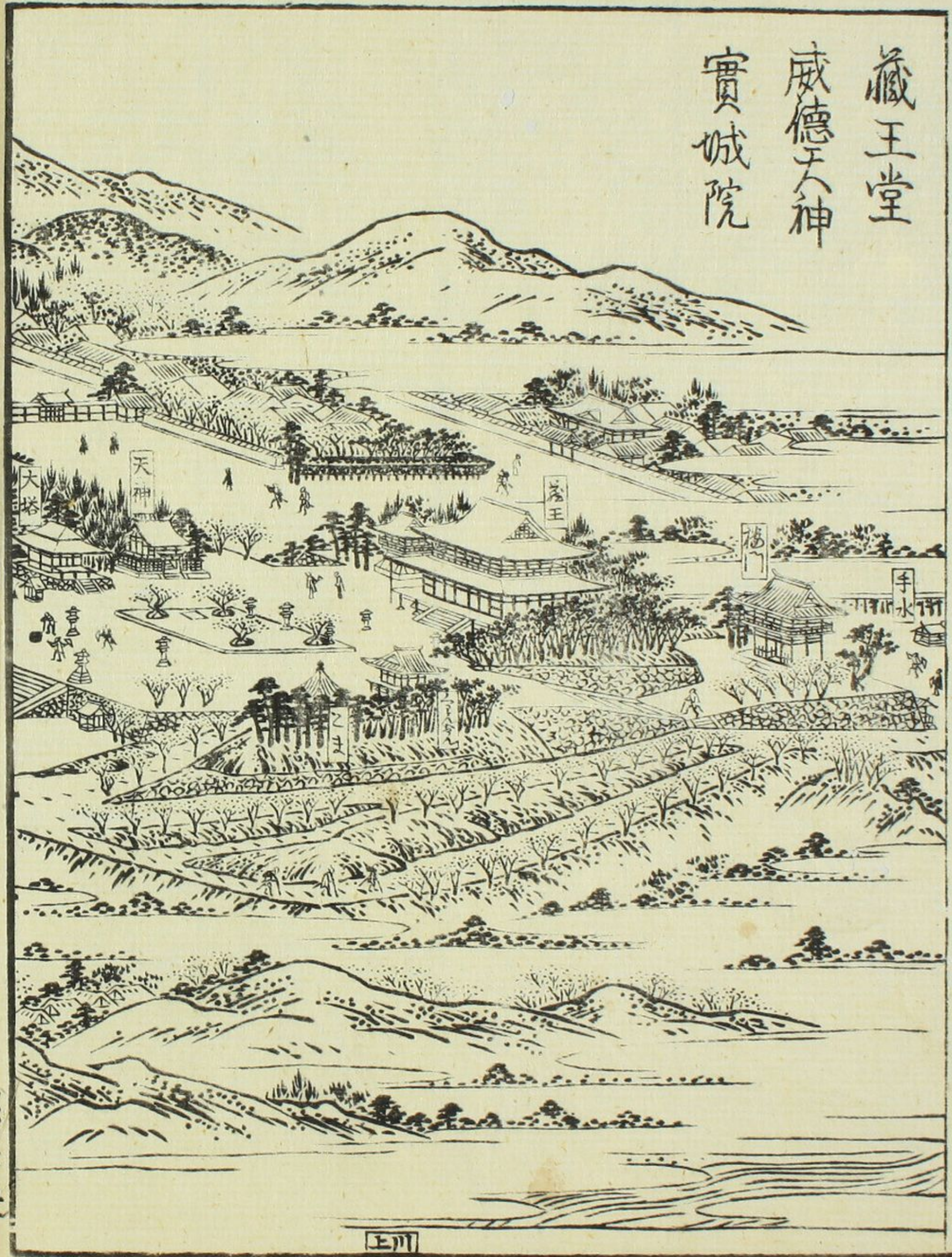




大納言御草

志ざし  
うらな  
夕アと  
のこせ  
入相乃  
くいの  
沂嶽の  
なれ  
むろふ

院成

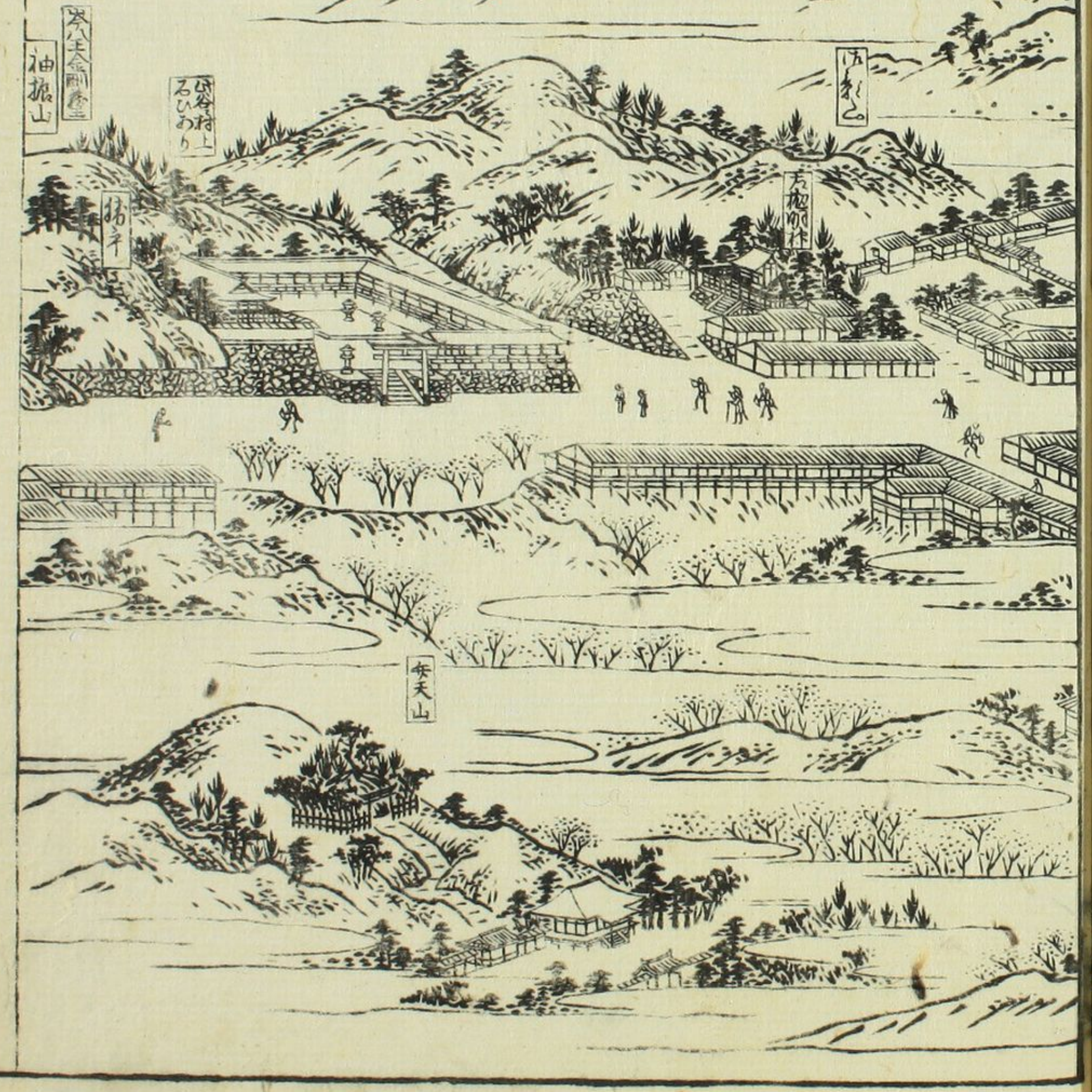


藏王堂  
威徳天神  
實城院

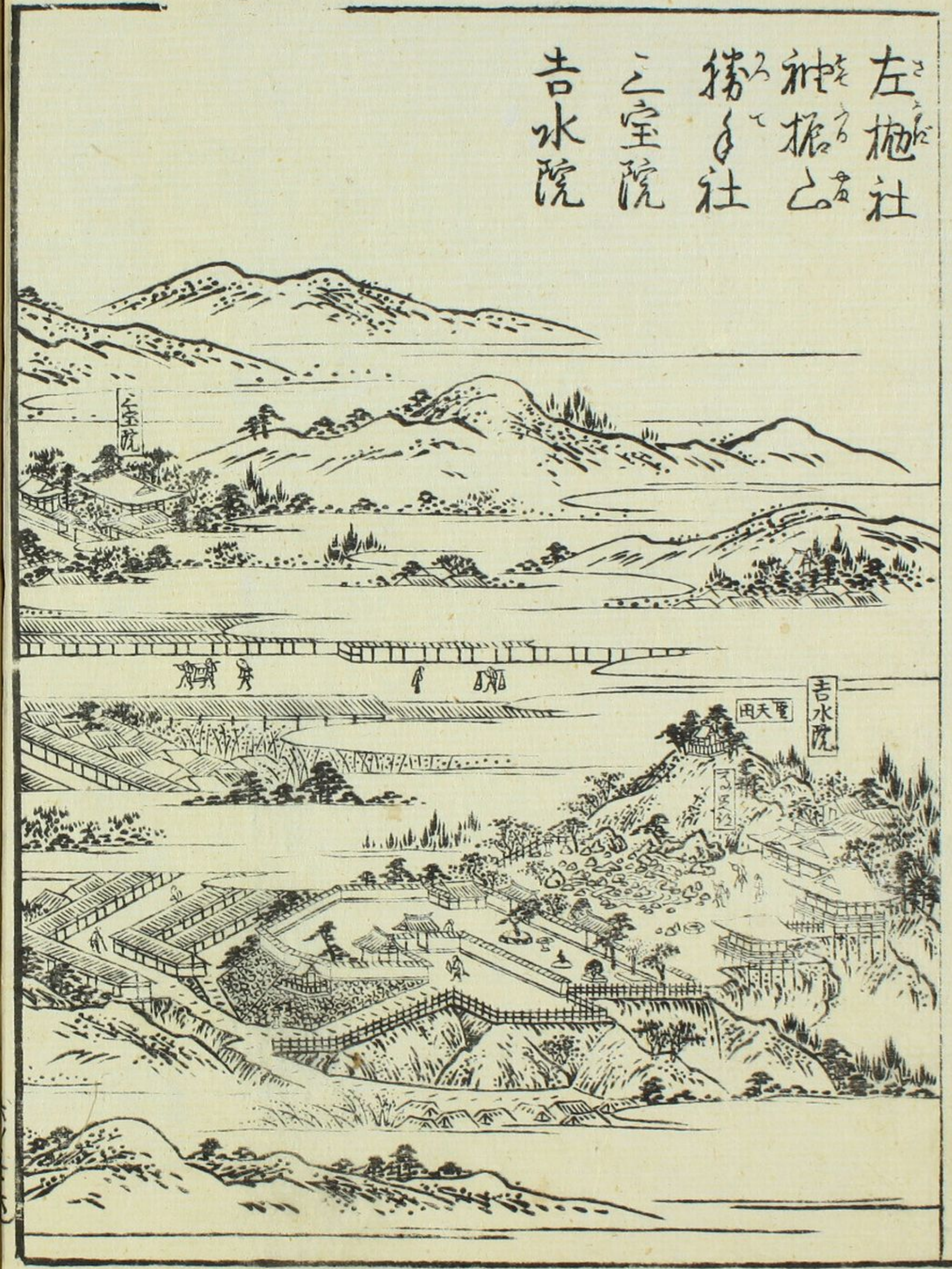
王川

續千載  
 天津風  
 雲吹  
 乙女子  
 祈名  
 秋の夜月

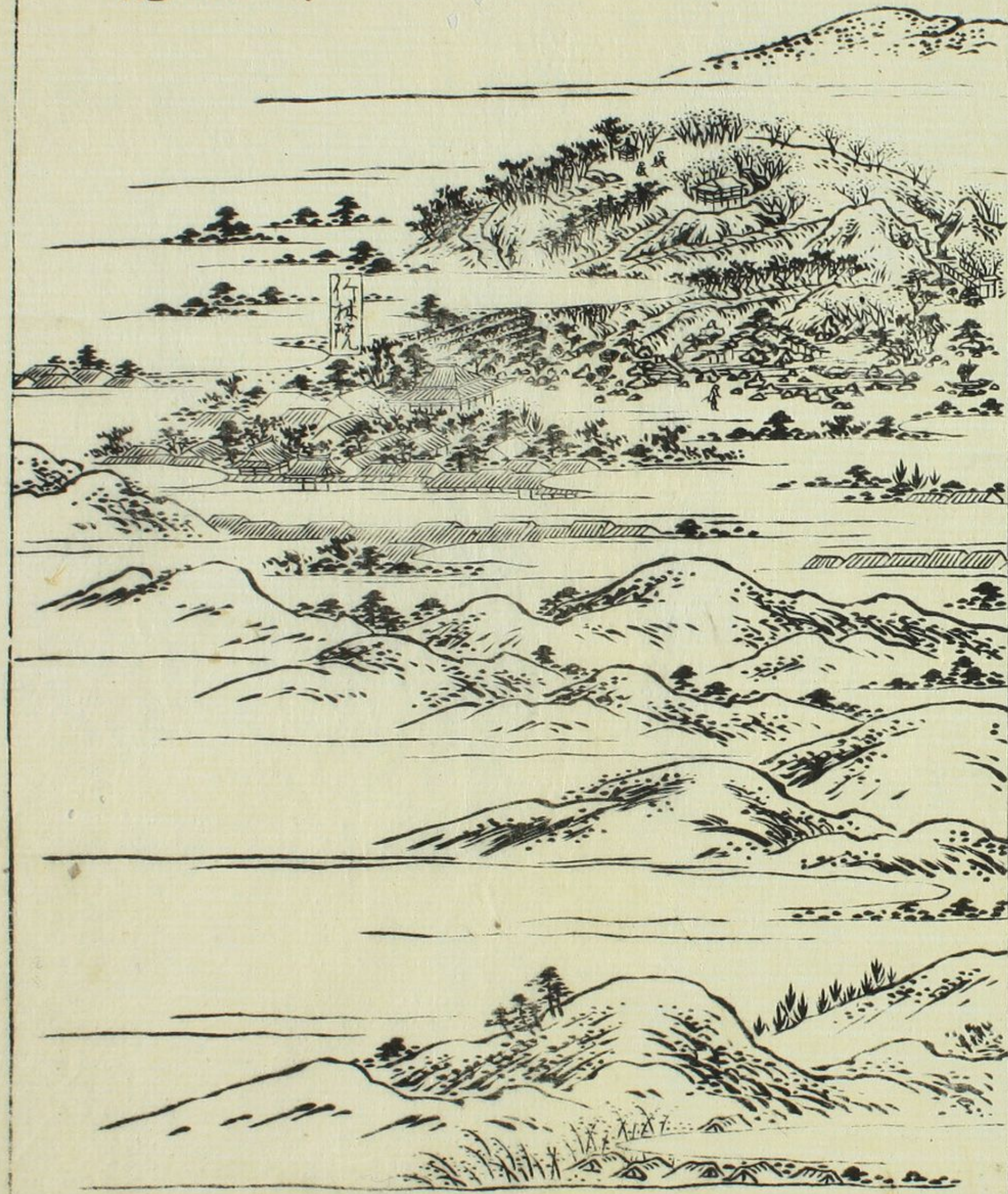
国友



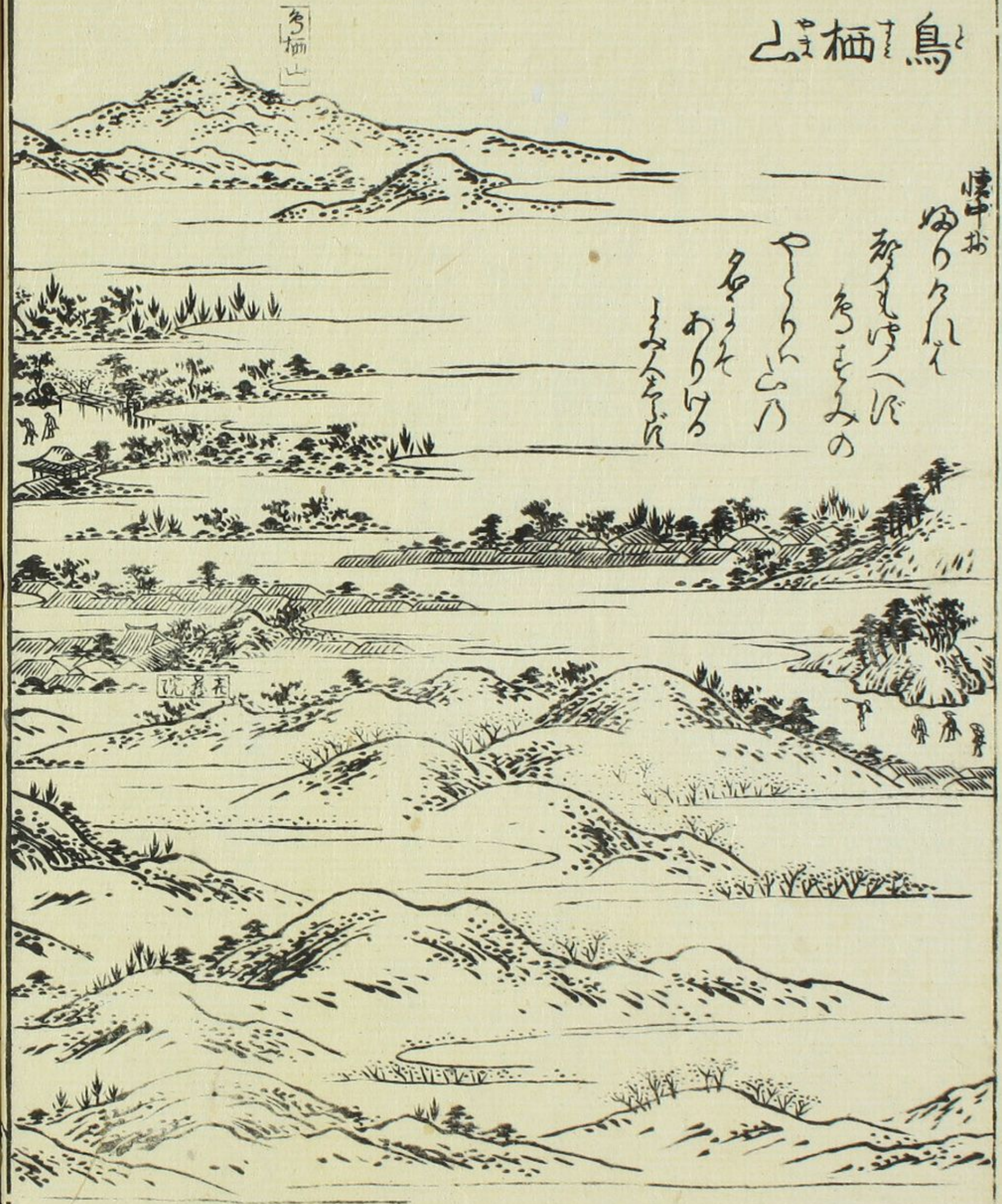
左施社  
 神振  
 吉水院  
 二室院



竹林院



鳥栖山

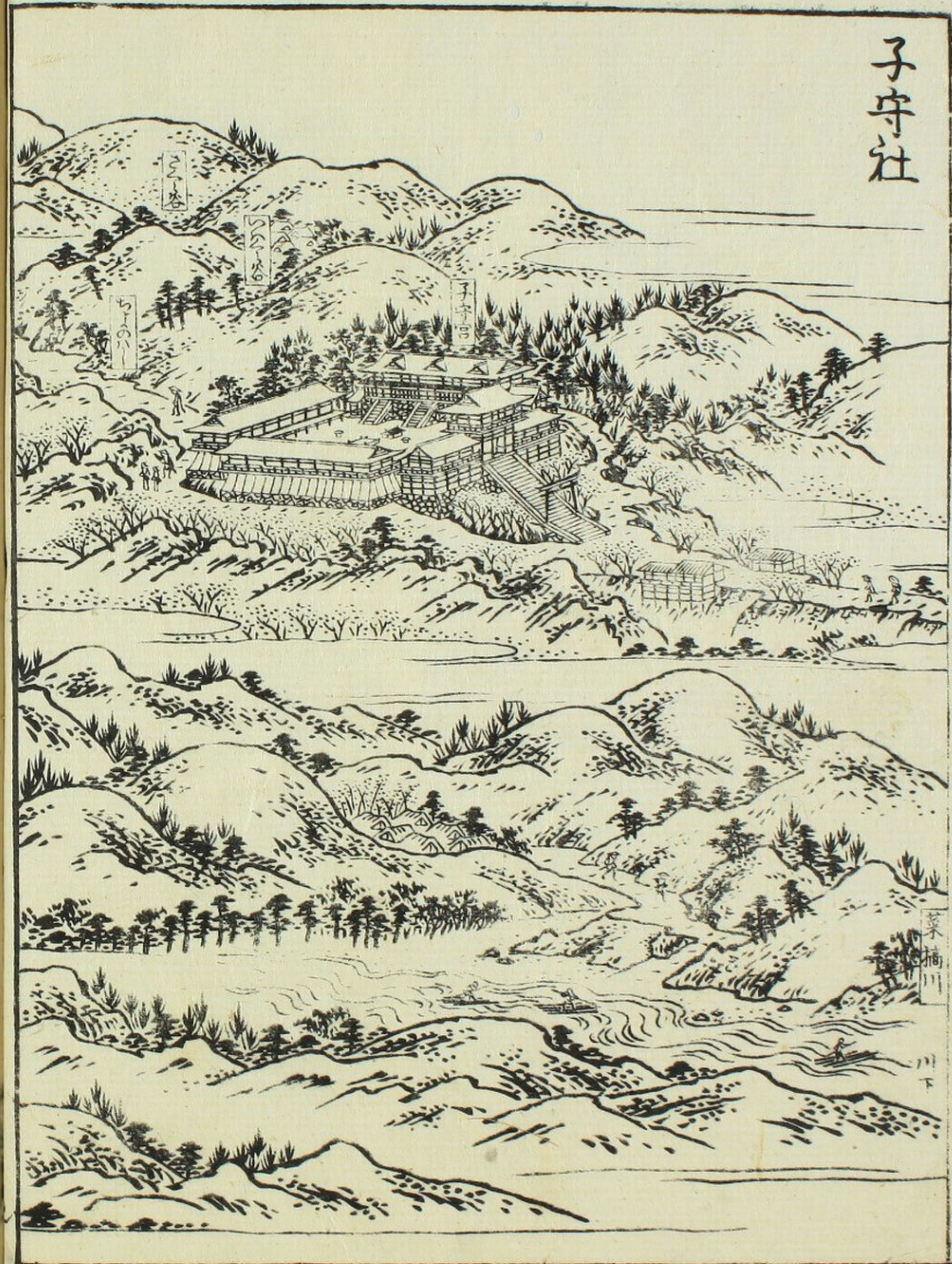
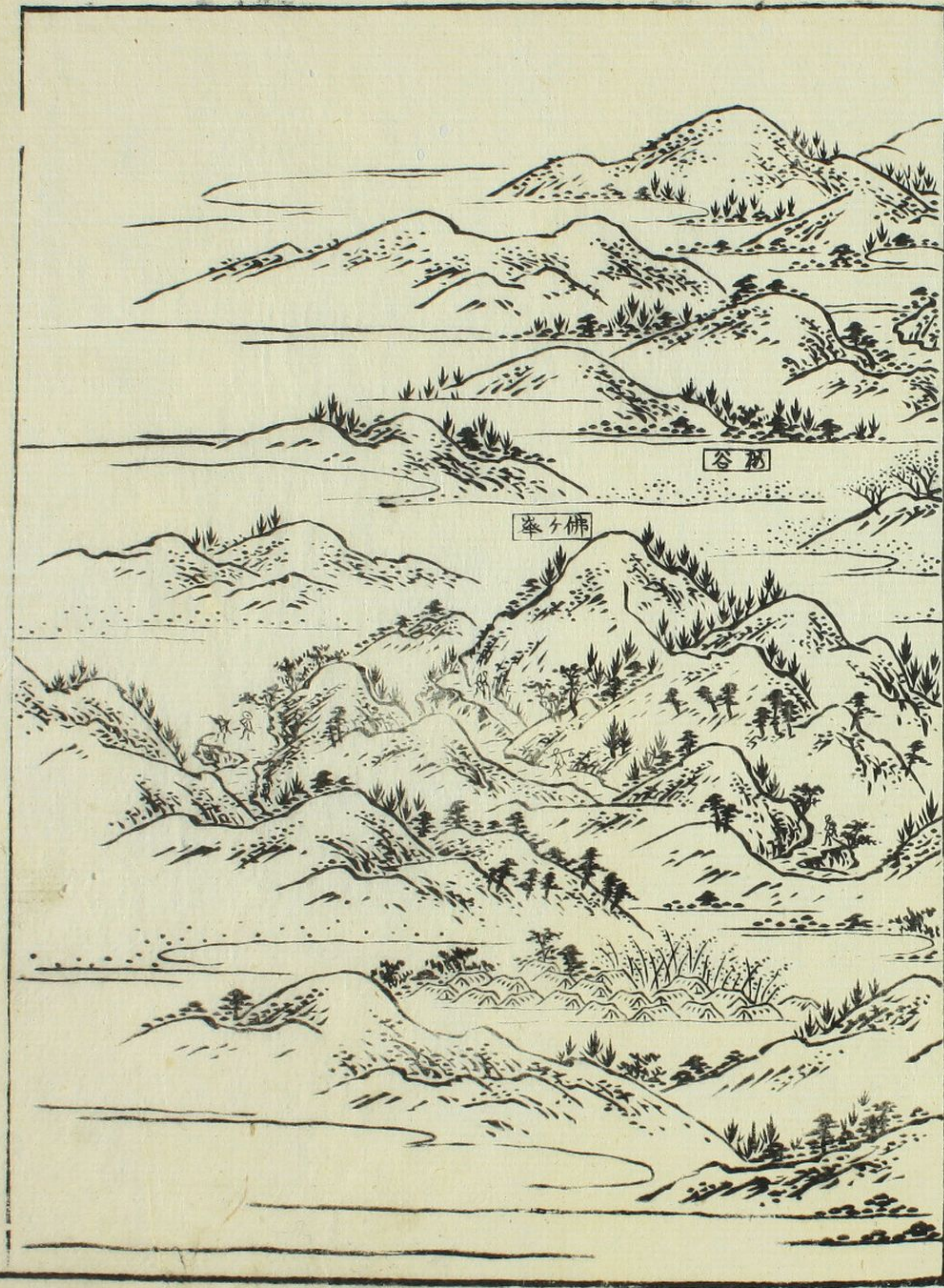


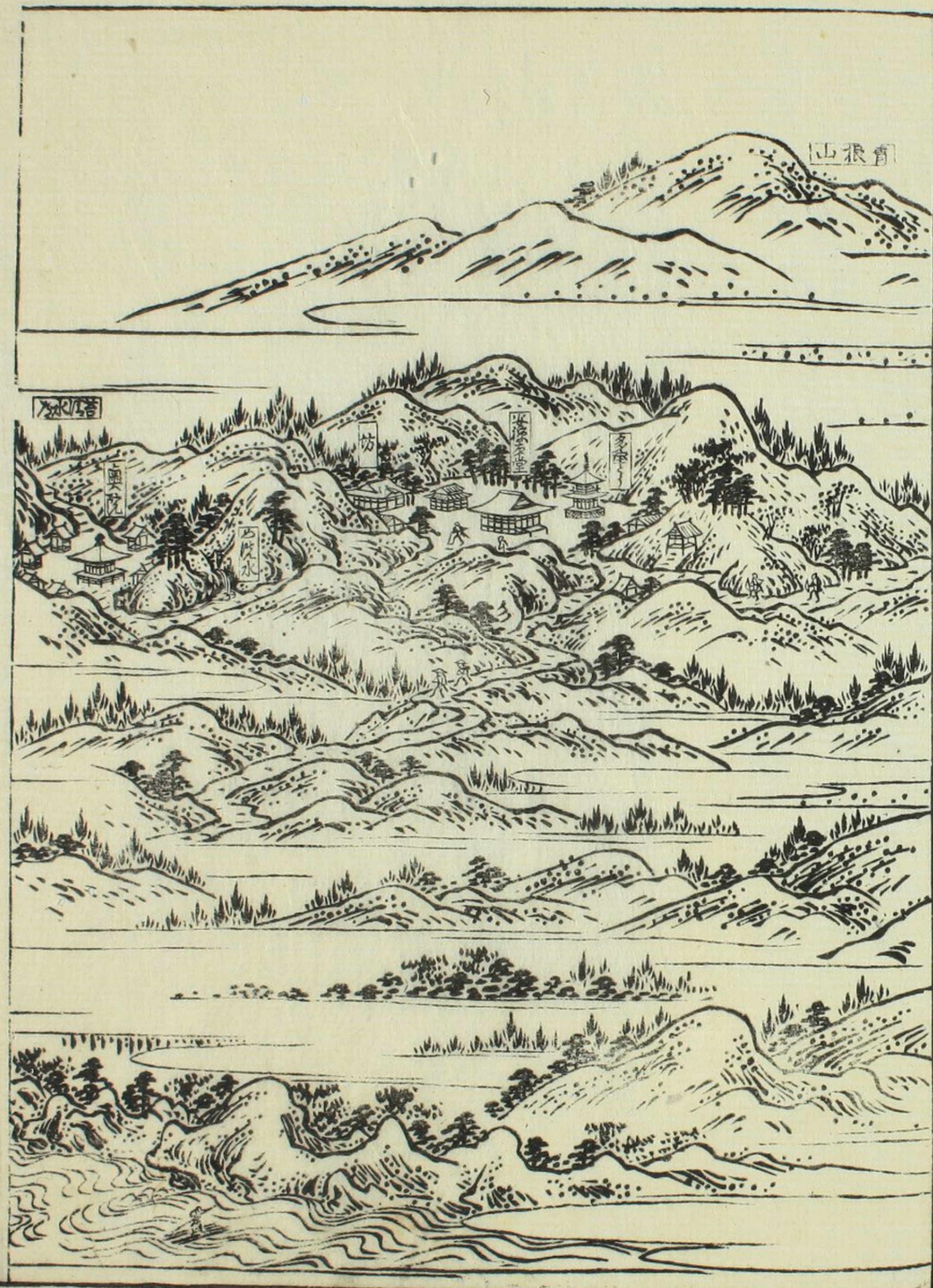
懐中  
ゆりか  
新まつ（泥）  
ちんまの  
やうい  
名うそ  
わりの  
まんま

鳥栖山

竹林院







金精大明神社  
安禪寺  
奥之院

西行房  
苔清水



山家集

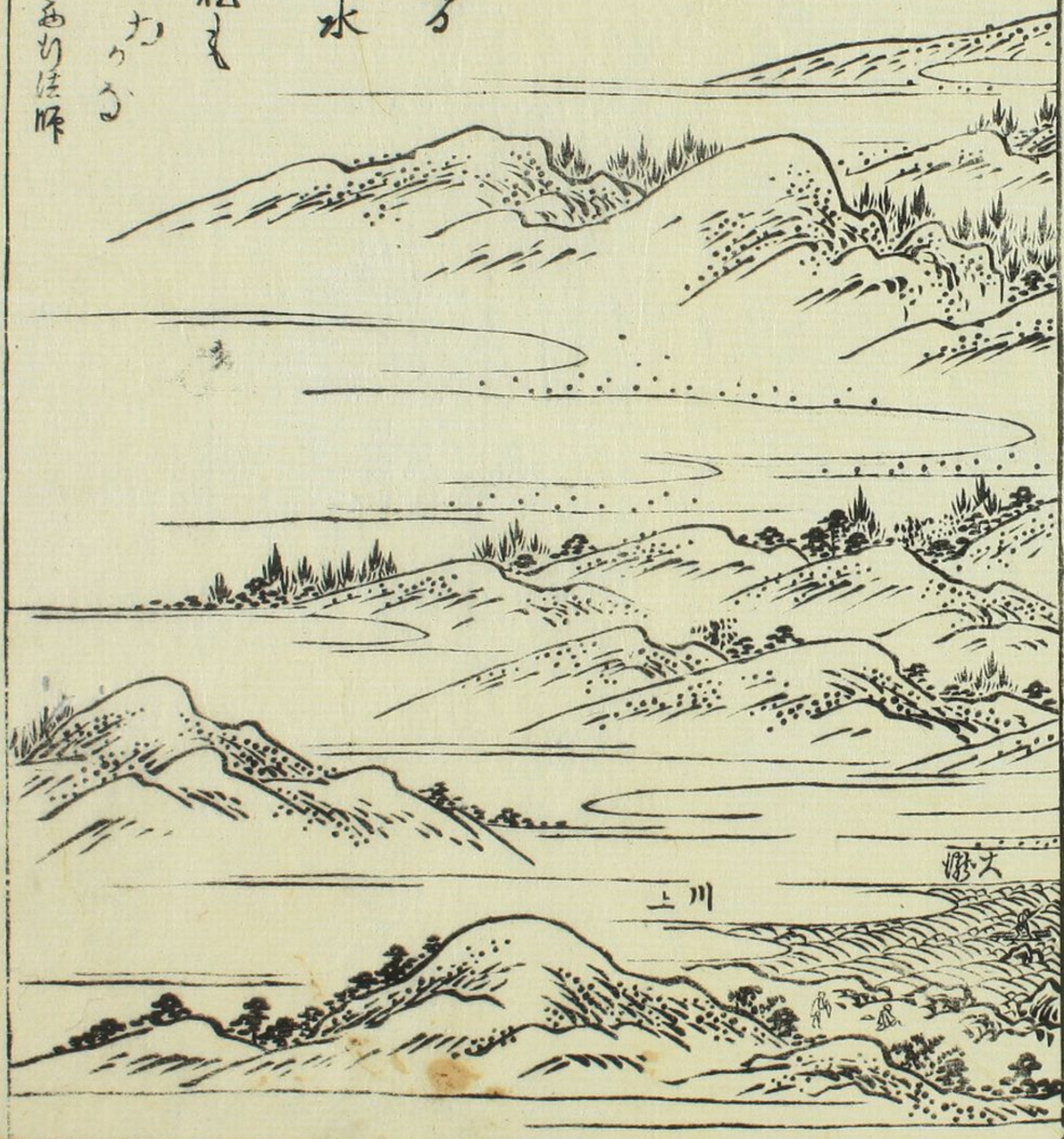
少くくし

岩乃の  
苔清水

くまの

くまの  
徑わ

西行法師



大川

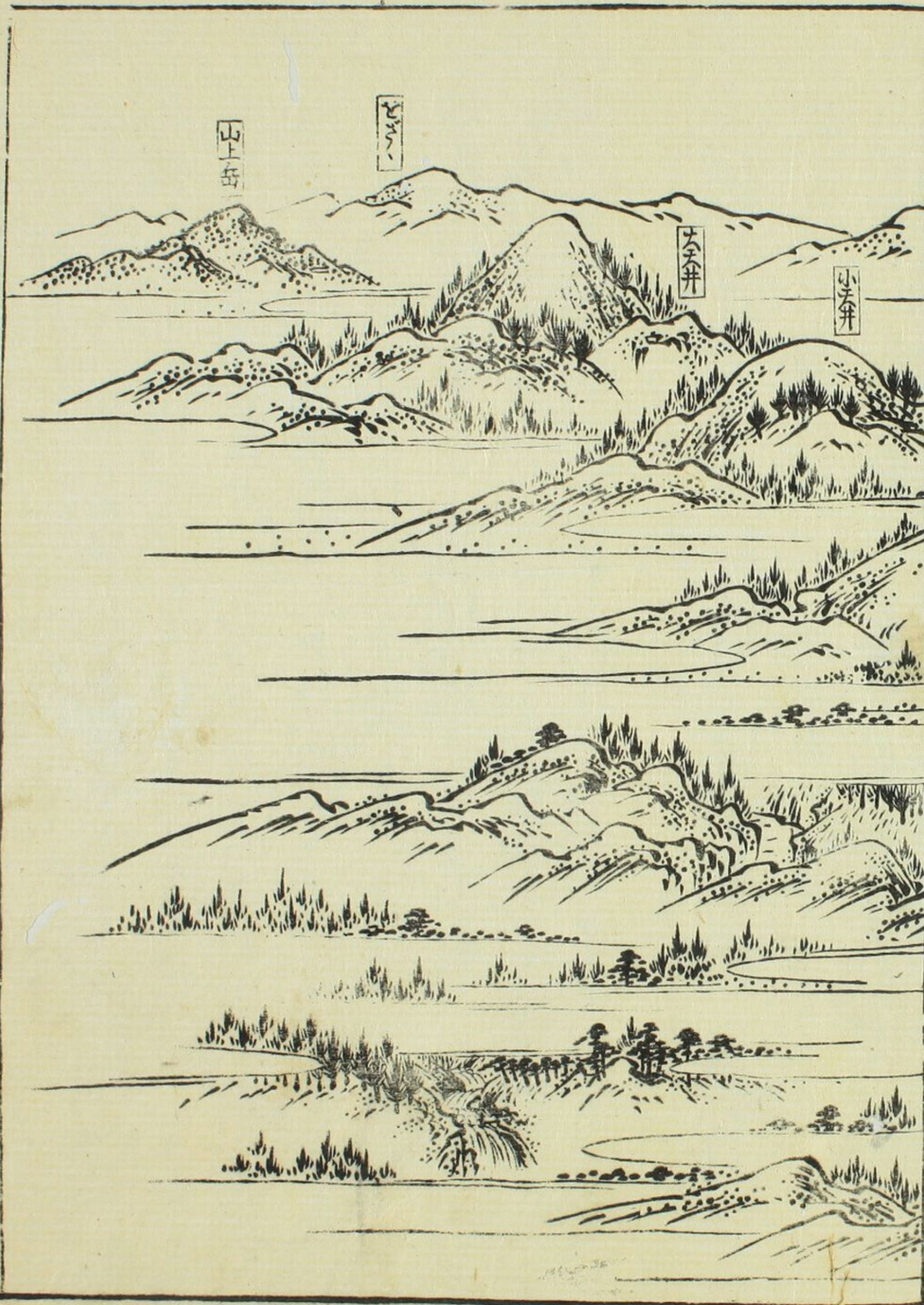
上川



清明  
龍







大峯山上嶽

後古今  
大峯山  
七九の  
うねり川乃  
まへへく  
まへ八代  
まへへく  
信じて意



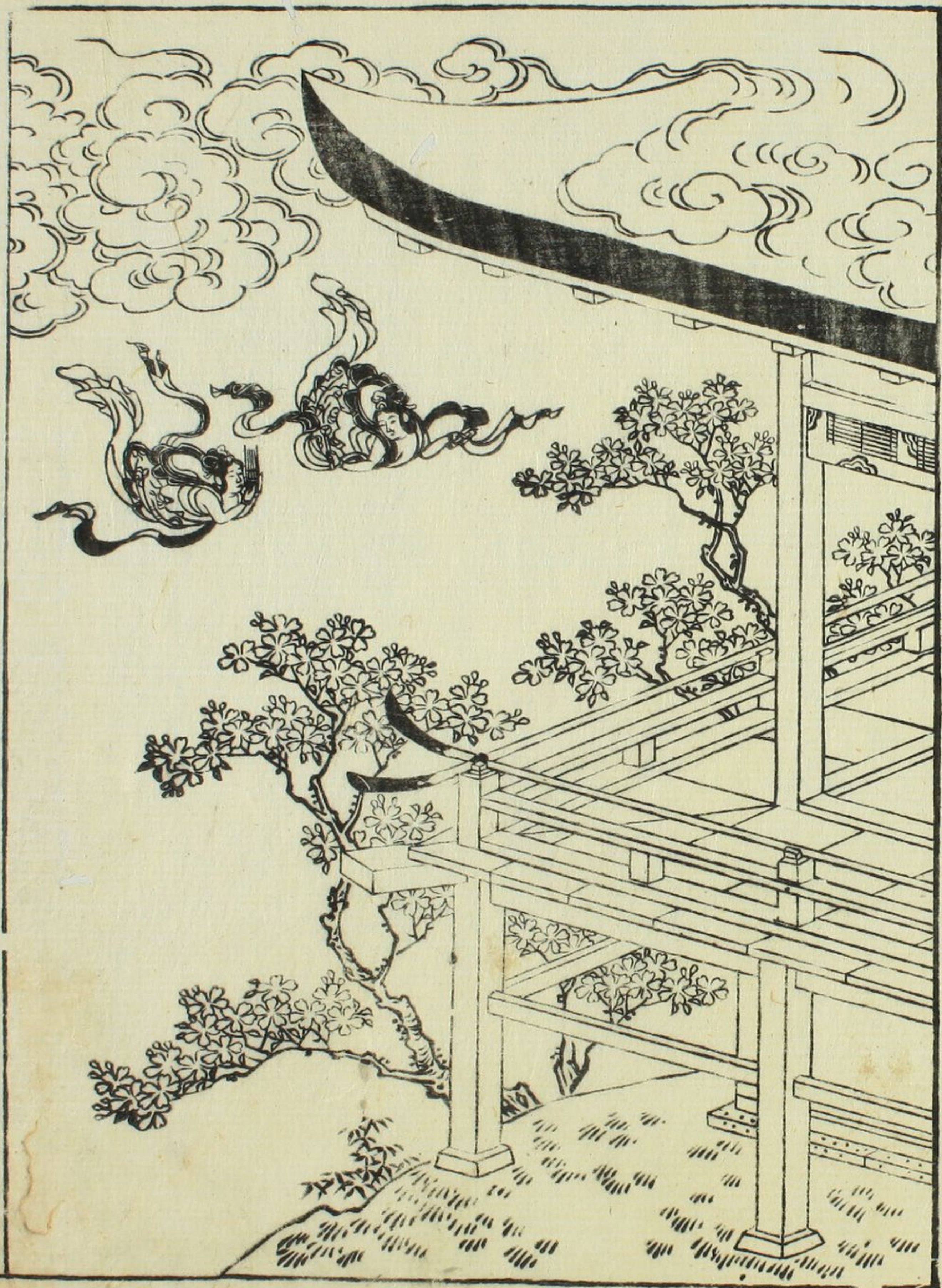




延嗣源義経公の愛新  
 神代卷の御子の神代巻  
 法樂の歌々奏一衆徒  
 のころを落し義経公  
 従十二騎と落すいかに  
 五と利どして勝ん合ふ  
 そら六韜文伐の篇れ  
 奥入くもいふこと  
 そのれ







清乃乃系玉八皇者世の切官を  
 張つた強一のくび天八人衆向一  
 曲小意しておむひたり  
 それら神居とていへ





櫻らえ記

後醍醐天皇の陵にやうり小橋が千本極を建てひらく

極この極はの下のまゝの御孝のあらはたせらん 雲蓋雲蓋

楠正行楠正行の所廟所廟小治小治の討死討死の所殿所殿をふとふたれやう如意如意編編のころのころ張

小楠正行小楠正行同正時同正時同將監同將監和田新發和田新發意同意同今身今身才新才新之清之清同紀同紀六光六光清門清門と長

二人新田四布二人新田四布子息二人西川子息二人西川子息南地良山

名留半座名留半座と無花無花墓 待我待我簡簡淳淳同行人

願願以此功德平等施一切同發菩提心往生安樂國

正行正行等等かとりくくくくくくくくくくくくくくくくく

ゆゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

とろんとろんくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

泊船集

くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

所所之廟之廟をふとふたれやう如意編のころ張

奇書奇書より軍書軍書小巻小巻くくくくくくくくくくくく

